

学 習 の し お り

1年生用



2 0 2 6

宮城県宮城広瀬高等学校

目次

1. これからの高校生活にあたって	1
2. 令和8年度入学生教育課程	3
3. 各教科目の年間授業計画と学習の仕方(各教科)	4
4. 学習計画表(第1回～第4回定期考査)	34
5. 考査点・評価点をまとめよう	50
6. 私のスケジュール	51

これからの高校生活にあたって

宮城広瀬高等学校 教務部

皆さんは、これから高校で、新しい生活を始めようとしています。授業や部活動、さまざまな学校行事を通して、皆さんがより実りある高校生活を送ることを願っています。

さて、高校は中学校とは違って義務教育ではありません。皆さんは高校で学ぶことを希望して入学しました。つまり、皆さんは何らかの目標を達成するために本校に入学したはずで、大学や短大に進学するためであったり、自分の希望するところに就職するためであったり、部活動を頑張るためであったり、その目標はさまざまだと思います。しかし、共通していえることは、これからの3年間、自らの目標を立て、いろいろなことにチャレンジし、努力を積み重ねていくことが必要だということです。その基本は学習(勉強)にあります。

以下に、義務教育とは違う点を説明しますので、よく理解をしておいて下さい。

1 履修について

履修とは授業に出席してきちんと授業を受けることをいいます。本校では、授業の欠課時数が標準時数(単位数×35時間)の3分の1を超えると履修が認められません。また、本校では全科目の履修を義務づけています。つまり、授業のある一定以上休んでしまうと履修が認められません。

2 単位について

本校で設定している教科・科目は、それぞれに単位が定められています。たとえば、「現代の国語」は週2時間授業があるので、「2単位」の授業となります。

単位とは、各科目が一週間に実施される時間数のことをいいます。各科目等の1週間の授業時間が合計で31時間あるので、1年間で31単位分の授業を受けることになります。

3 単位修得と進級・卒業について

単位修得とは、1年間きちんと授業を受けて履修の認定を受けた科目の成績が一定の基準を満たした場合、年度末の3月に行われる成績会議で認定されるものです。

本校では卒業までに74単位以上を修得しないと卒業できません。また、1学年から2学年に進級するには原則25単位以上、2学年から3学年に進級するためには合計50単位以上の修得単位が必要です。

4 定期考査と成績(評点)について

皆さんの日頃の学習の成果を確かめるために設けられているのが定期考査です。実技教科(体育・芸術等)を除くほとんどの教科・科目について、年4回、定期考査(試験)を実施します。定期考査の点数を含め、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点に基づいて総合的に評価を行い、皆さんの成績(評点)が出されます。

考査は絶対に欠席しないでください。欠席にやむをえない理由がある場合は追考査の受験を認めますが、その場合、最大でも得点の8割しか考査点として認められません。(忌引きや感染症等の出席停止、大会参加等の公認と認められる欠席の場合は、追考査の得点を10割認めます。)やむをえない理由以外で考査を欠席した場合には、考査点が0点となります。また、考査等において不正行為を行った場合には、当該科目の考査点が0点となるほか、相応の指導を受けることになります。

5 欠点と再指導について

30点未満の評点が欠点(赤点)です。欠点となった科目については、定期考査終了後、再指導を受けることができます。再指導は各回の定期考査終了後に実施します。ただし、第4回については、4回分の評点の合計が120点に満たない者のみを対象とします。再指導を受ける際には、生徒本人と保護者等が連署・押印した「再指導願」を教科担任に提出してください。再指導の成果が良好であれば、評点は最高で30点となります。再指導を受けなかった場合や再指導の成果が良好でない場合は、評点は欠点のままになります。

6 評定について

年4回出される成績(評点)を平均した点数が学年成績(一年間の成績)となり、5段階の評定が決まります。評定は学年成績が80点以上の場合には「5」、65~79点は「4」、45~64点は「3」、30~44点は「2」、欠点である29点以下は「1」です。評定が「1」の場合はその科目の単位の修得は認められません。この評定は、皆さんが進学や就職するときに重要ですので、欠点とならないようにしてください。

7 技能審査成果の単位認定

本校では、下表に示す技能審査に合格した場合、進級・卒業のための単位として認定しています。学校で受検できるものもあるので、積極的に受けることを期待しています。

技能審査の種類			対応する教科・科目		認定 単位数
主催団体	名称		教科	学習指導要領対応科目	
(公財)日本英語検定協会	実用英語技能検定	2級	外国語	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ	いずれか 2単位
国際教育交換協議会日本代表部	TOEFL	IBT 48～67 点	外国語	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ	いずれか 2単位
(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会	TOEIC L&R/S&W	1150～ 1550点			
(公財)日本漢字能力検定協会	日本漢字能力検定	準2級	国語	現代の国語	1単位
		2級			2単位
(公財)日本数学検定協会	実用数学技能検定	準2級	数学	数学Ⅰ	1単位
		2級		数学Ⅱ	2単位
		準1級		数学Ⅱ 数学Ⅲ	いずれか 2単位
(公財)全国商業高等学校協会	情報処理検定	1級	商業	情報処理	2単位
(公財)全国商業高等学校協会	ビジネス文書実務検定	1級			
(公財)全国高等学校家庭科教育振興会	全国高等学校家庭科食物調理技能検定	2級	家庭	家庭基礎 フードデザイン	いずれか 1単位
		1級			いずれか 2単位
(学)香川栄養学園	家庭料理技能検定	2級	家庭	フードデザイン	2単位

8 学校外学修の単位認定

「社会体験・ボランティア活動」

主体的・継続的に取り組む姿勢を評価するため、「社会体験・ボランティア活動」という学校設定科目を設けています。年度始めに活動届を提出し、学校内外のボランティア活動に参加した時間が50分×35＝1750分となるなど、本校の定める条件を満たした場合、各学年で2単位まで修得することができます。ただし、これにより認定された単位は進級及び卒業のための単位には含まれません。

宮城県宮城広瀬高等学校【令和8年度入学生教育課程】(予定)

※太字は必修科目

単位	【第1学年】		【第2学年】		【第3学年】				単位			
					理系大学／高等看護		文系大学／専修各種学校／就職					
1	現代の国語(2)		※論理国語(2)		※論理国語(2)		※論理国語(2)		1			
2									2			
3	言語文化(3)		※文学国語(2)		※文学国語(2)		※文学国語(2)		3			
4									4			
5	地理総合(2)		※古典探究(2)		※古典探究(2)		※古典探究(2)		5			
6									6			
7	公共(2)		歴史総合(2)		政治・経済(3)		政治・経済(3)		7			
8									8			
9	数学Ⅰ(3)		数学Ⅱ(4)		体育(2)		体育(2)		9			
10									10			
11									11			
12	数学A(2)		P	数学B(2)	英語コミュニケーションⅢ(4)		英語コミュニケーションⅢ(4)		12			
13				音楽Ⅱ(2)					13			
14				美術Ⅱ(2)					14			
15	生物基礎(2)		化学基礎(2)						15			
16					A	数学C(2)	論理・表現Ⅲ(2)		16			
17	体育(3)		Q	物理基礎(2)	地学基礎(2)		論理・表現Ⅲ(2)		17			
18									18			
19	保健(1)		体育(2)		B	数学Ⅲ(4)	発展理系数学(4)	地理探究(4)	日本史探究(4)	世界史探究(4)	19	
20									20			
21	X	音楽Ⅰ(2)	保健(1)						21			
22		美術Ⅰ(2)			C	化学(4)		発展文系数学(2)	音楽Ⅲ(2)	美術Ⅲ(2)	情報処理(2)	22
23	英語コミュニケーションⅠ(3)		英語コミュニケーションⅡ(4)						23			
24					D			応用英語(2)	スポーツⅠ(2)	生活と福祉(2)	ビジネス基礎(2)	24
25									25			
26	論理・表現Ⅰ(2)		論理・表現Ⅱ(2)		E	物理(4)	生物(4)	実践化学基礎(2)	実践地学基礎(2)	保育基礎(2)	ビジネス・コミュニケーション(2)	26
27									27			
28	情報Ⅰ(2)		家庭基礎(2)		F			実践生物基礎(2)	フードデザイン(2)	器楽(2)	情報メディアデザイン(2)	28
29									29			
30	総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		総合的な探究の時間(1)		30			
31	ホームルーム活動(0)		ホームルーム活動(0)		ホームルーム活動(0)		ホームルーム活動(0)		31			

「学校外学修」による単位認定

ボランティア活動は各学年最大2単位、3年間で6単位までの修得が可能。インターンシップ活動は第2学年のみ1単位まで修得可能。

32	社会体験・ボランティア活動(0),(1),(2)	社会体験・ボランティア活動(0),(1),(2)	社会体験・ボランティア活動(0),(1),(2)	32
33				33
34	*	社会体験・インターンシップ活動(0),(1)	*	34

「第3学年」における単位数及び科目選択について

	理系の単位数	文系の単位数			
国語	6	6	理系等	A	16~17 数学C(2)又は論理・表現Ⅲ(2)を選択
地理歴史	0	4		B	18~21 数学Ⅲ(4)又は+発展理系数学(4)を選択
公民	3	3		E F	26~29 物理(4)又は生物(4)を選択
数学	4, 6	0, 2	文系等	B	18~21 地理探究(4), 日本史探究(4), 世界史探究(4)から1科目選択
理科	8	0, 2, 4		C	22~23 発展文系数学(2), 音楽Ⅲ(2), 美術Ⅲ(2), 情報処理(2)から1科目選択 音楽Ⅲ(2)は第2学年で音楽Ⅱ(2)を、美術Ⅲ(2)は第2学年で美術Ⅱを履修した者が選択できる
保健体育	2	2, 4		D	24~25 応用英語(2), スポーツⅠ(2), 生活と福祉(2), ビジネス基礎(2)から1科目選択
芸術	0	0, 2, 4		E	26~27 実践化学基礎(2), 実践地学基礎(2), 保育基礎(2), ビジネス・コミュニケーション(2)から1科目選択
外国語	4, 6	6, 8		F	28~29 実践生物基礎(2), フードデザイン(2), 器楽(2), 情報メディアデザイン(2)から1科目選択
家庭	0	0, 2, 4, 6			
商業	0	0, 2, 4, 6			

就職希望者は選択することが望ましい

福祉・保育関係の進路希望者は選択することが望ましい

分割履修科目について(※)

論理国語, 文学国語, 古典探究は第2学年及び第3学年における分割履修科目である。

学校設定科目について

社会体験・ボランティア活動は第1学年, 第2学年及び第3学年における学校設定教科・科目である

社会体験・インターンシップ活動は第2学年における学校設定教科・科目である

発展理系数学, 発展文系数学, 実践化学基礎, 実践生物基礎, 実践地学基礎, 応用英語は第3学年における学校設定科目である。

現代の国語

○学習のねらい

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
- (3) 言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

○学習方法○

予習 ～授業の前に～

新しい単元の前に、授業を受ける準備をしましょう。授業で取り組む活動について、事前の情報収集が大切です。担当の先生の指示に従い、事前の準備を進めましょう。

授業 ～主体的に取り組む態度～

話すのが苦手な人も、書くことが苦手な人も、積極的に活動することが大切です。ペアワークやグループワーク活動の中で、順序だてて話す、書くといった練習をしていきましょう。

復習 ～振り返り～

その日の授業を通して、具体的に何ができるようになったのかを書き留めておきましょう。できるようにならなかったという反省も大切です。次回の課題にしていきましょう。

○評価の方法○

観点ごとのポイント							
I 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。						
II 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。						
III 主体的に取り組む態度	言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。						
評価の場面	考查	考查以外					
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	考查	小テスト	学習状況の観察	作文	スピーチ	ノート	自己評価
I 知識・技能	◎	◎		○			
II 思考・判断・表現	○			◎	○		○
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎	○

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
国語	現代の国語	1学年 全クラス	2	新編 現代の国語 (東京書籍)	新編現代の国語 学習課題ノート(東京書籍) 新訂七版 新訂総合国語便覧(第一学習社) TOP2500 四訂版(いっずな書店)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:達成できた B:まあまあ C:達成できなかった
4	第一回 考査範囲	気になるニュースについて話そう	5 話・聞	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。	自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫した。	A・B・C
		山崎正和「水の東西」	5 読む	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握した。	A・B・C
		集めた情報の内容を検討して意見文を書こう	7 書く	目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。	目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にした。	A・B・C
6	考査		1			
7	第二回 考査範囲	わかりやすい説明をしよう	4 話・聞	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して伝え合う内容を検討する。	目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して伝え合う内容を検討した。	A・B・C
		村上信夫「鍋洗いの日々」 矢田勝美「真夏のひしこ漁」	5 読む	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握した。	A・B・C
		憧れの職業について調べ、整理してまとめよう	7 書く	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。	読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫した。	A・B・C
	考査		1			
10	第三回 考査範囲	発想を広げる方法を使って話し合おう	4 話・聞	論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりする。	論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりした。	A・B・C
		新聞記事を読んで意見文を書こう	8 書く	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方考えとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。	自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方考えとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫した。	A・B・C
		港千尋「無彩の色」	4 読む	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深める。	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈するとともに、自分の考えを深める。	A・B・C
	考査		1			
12	第四回 考査範囲	鷲田清一「真の自立とは」	5 読む	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、文章の構成や論理の展開などについて評価するとともに、自分の考えを深める。	目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、文章の構成や論理の展開などについて評価するとともに、自分の考えを深めた。	A・B・C
		読み手のアドバイスを生かして紹介文を書こう	7 書く	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題を捉えなおす。	目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特徴や課題を捉えなおした。	A・B・C
		資料を活用して発表しよう	5 話・聞	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫する。	論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出し方を工夫した。	A・B・C
3	考査	新年度の準備	1			

言語文化

○学習のねらい○

言葉による見方や考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質能力を育成する。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。
- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。

○学習方法○

予習 ～授業の前に～

授業を受ける準備をしましょう。本文をあらかじめ読むことはもちろん、言葉の意味や使われている漢字について調べ、理解を進めましょう。

授業 ～主体的に取り組む態度～

言語文化では、言葉に対する正しい理解が大切です。語句や文法への理解を深めていくとともに、作品や文章に表れているものの見方、感じ方を捉え、内容の解釈を深めていきましょう。

復習 ～振り返り～

その日の授業の中で学習した語句や文法を復習しましょう。特に新しく触れた語句はしっかりと身に付け、次回からの内容の解釈に活用できるようにしていきましょう。

○評価の方法○

観点ごとのポイント							
I 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。						
II 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。						
III 主体的に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。						
評価の場面	考查	考查以外					
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	考查	小テスト	学習状況の観察	書くこと	作文	ノート	自己評価
I 知識・技能	◎	◎		○			
II 思考・判断・表現	○			◎	○		○
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎	○

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
国語	言語文化	1学年 全クラス	3	新編 言語文化 (東京書籍)	新編言語文化 学習課題ノート(東京書籍) 新訂七版 新訂総合国語便覧(第一学習社) TOP2500 四訂版(いづな書店) 古典の手引き(いづな書店)	105

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:達成できた B:まあまあ C:達成できなかった
4		○ 随筆 生きる喜び 俵万智「さくらさくらさくら」	5 現	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深める。 ▼引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深めた。	A・B・C
5		○ 古文入門 「児のそら寝」(宇治拾遺物語) 「絵仏師良秀」(宇治拾遺物語)	11 古	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ▼古文と現代文の違いを知り、古文を読む基礎となる文語の決まりを理解する。説話のおもしろさを味わい、古文の世界に親しむ。	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めた。	A・B・C
6		○ 随筆 日々の思い 「奥山に、猫またといふ、ものありて」(徒然草) 「うつくしきもの」(枕草子)	8 古	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深める。 ▼古文の表現に慣れ、随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に捉える。	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深めた。	A・B・C
	考査		1			
7	第二回考査範囲	○ 漢文入門 訓読の基本	8 漢	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 ▼漢文の特色を知り、さまじり理解する。格言や故事成語を読んで、漢文の世界に親しむ。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えた。	A・B・C
8		○ 漢文入門 故事成語「五十歩百歩」(孟子)	9 現	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深める。 ▼会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深めた。	A・B・C
9		○ 小説1 触れ合う心 三浦哲郎「とんかつ」	7 古	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深める。 ▼会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容の解釈を深めた。	A・B・C
	考査		1			
10	第三回考査範囲	○ 詩歌 うたの心 大岡信「折々のうた」	7 古	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ▼詩歌に表れたものの見方、感じ方、考え方を捉える。特徴的な表現の技法と効果について理解する。	作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めた。	A・B・C
		○ 詩歌 命をうたう 現代短歌・俳句・詩 歌詞の意味や表現技法について考えよう	8 現	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ。 ▼詩や短歌、俳句に親しみ、深く読み味わう力を養う。	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つことができた。	A・B・C
		○ 漢詩 漢詩を味わう 絶句と律詩 「鹿柴」(王維) 「春暁」(孟浩然、幸田露伴) 漢詩と日本文学	7 漢	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ。 ▼漢詩を繰り返し音読し、優れた表現に親しむ。漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取る。	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つことができた。	A・B・C
		○ 短歌を作る	5 書く	自分の知識や体験の中から適切な材料を集め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にする。	自分の知識や体験の中から適切な材料を集め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にした。	A・B・C
	考査		1			
12	第四回考査範囲	○ 物語 古人の生き方 「芥川」(伊勢物語)	7 古	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えた。	A・B・C
		○ 小説2 葛藤する心 芥川龍之介「羅生門」 元になった古典作品と読み比べよう	10 現	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。 ▼極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。	文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価した。	A・B・C
		○ 論語 論語のことは 論語 『論語』の注釈を読む	5 漢	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つ。 ▼孔子の学問・人間・政治の在り方についての考えを捉え、ものの見方や考え方を豊かにする。	作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持つことができた。	A・B・C
		○ 物語を作ろう	4 書く	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫した。	A・B・C
	考査		1			
		新年度の準備				

1年 地理総合

○ 学習のねらい

- ・学習全体を通して GIS (Geographic Information System) を活用する能力を高め、世界を多面的に理解する。
- ・学習内容や身近な話題から地球的課題について考える視野を養い、SDGs の課題に向き合う。
- ・日本を中心とした自然環境の理解を深め、気候や地形の知識をもとに気象の地球的变化や自然災害について考え、防災意識の向上をはかる。

○ 学習方法

1 授業のはじめに

- ・教科書の各ページに明記されている学習課題を確認し、授業内で身に付ける知識を明確にする。

2 授業内における活動について

- ・授業は講義・調査・データ読み取りと作成・ICT 活用等多岐にわたります。この科目では、特に主体的な活動を多く求められます。時間内に決められた作業を的確に行うことも学習と評価に含まれます。
- ・授業では教科書だけでなく地図帳や資料等多くの文献やデータを扱います。常に整理し、管理して下さい。{学習教材の不備やプリントの紛失も学習活動の一環として評価します(マイナスの評価)。}

3 授業のまとめ

- ・教科書の「確認」は小单元ごとに行います。「深い学び」については、各自授業後に自主的に行うことを期待しています。

○ 評価の方法

考査は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で、問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み、実力を確かなものにして臨んで下さい。

定期考査の割合は 60%以上を原則として、下記の観点に基づいて 100 点満点で総合的に評価を行います。

観点ごとのポイント	
I 知識・技能	地理的な事柄や現象について理解しているとともに、地理を学術的に探究するために必要な知識と技能を身に付けている。 デジタルツールを使用して、GIS の実践を行うことができる。
II 思考・判断・表現	地理的な事柄や現象の中から問題を見だし、調査、データの整理や作成などを通して、地理的に考察し、数字や文章を自分の言葉で表現することができる。 統計資料や地図を地理的視点から読み取り、データ内にある事実を見だし、他者に説明・表現することができる。
III 主体的に取り組む態度	学習のテーマに対し、自らの意志で主体的に関わる。また指示された内容については的確に内容を把握し、見通しをもって課題を遂行する。同時に学習内容を自分の生活に関連付けて考察し、自ら課題を見つけて、さらに探究して学習する意欲が見られる。

評価の場面	考査	考査以外					
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	各考査	学習状況の観察	授業内課題	自主レポート	GIS活用	ワークノート	自己評価
I 知識・技能	◎		○		◎	○	
II 思考・判断・表現	○		◎		○		○
III 主体的に取り組む態度		◎	○	◎		◎	◎

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
地理歴史	地理総合	1年 必修	2	高校生の地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)	最新地理図表 GEO(第一学習社) 高校生の地理総合ノート(帝国書院)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容	到達目標	自己評価
				※どのような内容を学ぶのか?	※どのようなことを身に付けたいか。	A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	地理から多様な現代世界を考える 第1部 地図や地理情報システム でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム	17	・地理を学ぶ意義 ・地球儀と地図 ・地図と地理情報システム ・地形図の見方と利用 ・統計地図の見方と利用	・地理総合の学びと自分や生活への繋がりについて考える ・球体としての地球の特性と時差を理解する ・地図の役割と読み方を理解する ・地形図の読み方とその意義について考察する ・統計地図の種類とそれぞれの特性を理解する ・統計地図を作成する	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
5		考査		1		
6	第二回 考査範囲	第1部 地図や地理情報システム でとらえる現代世界 第2章 結びつきを深める現代世界	17	・現代世界の国家と領域 ・地図からみる国内や国家間の結び つき ・貿易・交通・通信・観光	・国家、領域について概念形成を行う ・国家間の結びつきについて各側面から考える ・貿易・交通・通信・観光の近年のグローバル 化について考察することができる	A・B・C A・B・C A・B・C
7		第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解		・生活文化の多様性	・生活文化を考察する方法について考える	A・B・C
8		第1章 生活文化の多様性と国際理解		・世界の地形と人々の生活	・地形の歴史と人類の関わりについて理解する ・生活舞台としての小地形を理解する	A・B・C A・B・C
9	考査		1			
10	第三回 考査範囲	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	16	・世界の気候と人々の生活	・気候区分について理解する ・各気候帯の生活文化を考察する ・モンスーンアジアの生活文化を考察する	A・B・C A・B・C A・B・C
11		第1章 生活文化の多様性と国際理解		・世界の産業と人々の生活 ・世界の言語、宗教と人々の生活	・各種産業の成り立ちについて理解する ・世界の言語について整理する ・世界の宗教について整理する ・世界と日本の生活文化について、共通点、相 違点に着目して考察する	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
12	第四回 考査範囲	第2部 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と国際協力	16	・複雑に絡み合う地球的課題 ・人口問題 ・資源エネルギー問題	・SDGsについての基本を理解する ・先進国と途上国の人口問題について考察し、解決策を考える ・エネルギー、鉱産資源の分類を理解する ・持続可能な社会の実現に向けて私たちができ ることを考察する	A・B・C A・B・C A・B・C
1		第3部 持続可能な地域づくりと 私たち 第1章 自然環境と防災		・地球的な課題 ・日本の自然災害 ・地震・津波と防災	・日本の火山災害について理解し、防災について考察する ・気象災害の現状と防災について考察する ・地理院地図を活用してハザードマップについて理解する	A・B・C A・B・C A・B・C
2		第2章 生活圏の調査と地域の展望		・生活圏の調査と地域の展望	・地理的課題について理解する ・フィールドワークの手法について理解する	A・B・C
3	考査		1			
		新年度の準備				

1年 公共

○ 学習のねらい

先哲が思考した人間と社会の在り方に関する見方・考え方に触れ、現代の諸課題の追究と解決を思索する活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

あらかじめ教科書や資料集に目を通し、概要をつかんでおくこと。

2 授業中～授業中の注意点～

- ① 授業に集中し、常に自分の知っている知識との関連性について考えること。
- ② 考えたこと、調べたこと、気付いたことなども積極的に発言し、記録すること。

3 授業後～復習～

- ① 授業内容を振り返り、自分なりに考えや記録をまとめ、整理しておくこと。
- ② 問題集に取り組み、自身の知識の定着をはかること。

○ 評価の方法

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	現代の諸課題を捉えて考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付けるようにする。							
II 思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。							
III 主体的に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。							
評価の場面	考查	考查以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	考查	小テスト	学習状況の観察	レポート	課題	ノートプリント	自己評価	グループワーク
I 知識・技能	◎	◎		○				
II 思考・判断・表現	○			◎	○		○	◎
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎	○	○

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
公民	公共	1年 全クラス	2	改訂版 公共 (数研出版)	改定版 記入整理・演習と解説 スタディノート 公共 (数研出版)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考 査 範 囲	第1章 公共的な空間をつくる私たち 第1節 青年期と自己形成	17	・青年期の意義 ・源流思想 ・日本の思想家の思想	・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。 ・先哲の思想や宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。 ・古代・中世・近世・近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。	A・B・C A・B・C A・B・C
		第2節 人間としての自覚				
5	第二 回 考 査 範 囲	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方 第1節 西洋近現代の思想	17	・西洋思想 ・現代の諸課題と倫理	・近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容が理解できている。 ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。	A・B・C A・B・C
		第2節 現代の諸課題と倫理				
6	第三 回 考 査 範 囲	第3章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原則	17	・政治の成り立ち ・日本国憲法と人権	・法などの社会規範の役割が理解でき、日常生活と関連づけて考察できている。 ・日本国憲法で保障されている権利が理解できている。	A・B・C A・B・C
		第2節 日本社会の基本原則				
	考查		1			
7	第四 回 考 査 範 囲	第4章 現代の民主政治と政治参加の意義 第1節 日本の政治機構	17	・国内政治のしくみ ・選挙・政党・地方自治・世論	・わが国における三権の権限や現状を理解できている。 ・選挙のしくみが理解できている。 ・政党の役割を理解できている。 ・地方自治の現状と課題が理解できている。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
		第2節 政治参加と民主政治の課題				
8	第五 回 考 査 範 囲	第5章 現代の経済や会と経済活動のあり方 第1節 経済のしくみと市場機構	17	・経済のしくみ	・現代の企業の果たしている役割が理解できている。 ・市場経済のメカニズムが理解できている。	A・B・C A・B・C
9	第六 回 考 査 範 囲	第2節 財政と金融	16	・財政・金融の役割	・政府が経済に果たしている役割を理解できている。	A・B・C
10	第七 回 考 査 範 囲	第3節 日本経済の発展と変化	16	・戦後の日本経済・中小企業 ・消費者問題・公害と環境・労働者	・戦後日本経済のあゆみが理解できている。 ・私法・契約の原則やその修正について理解できている。	A・B・C A・B・C
		第4節 豊かな生活と福祉の実現				
11	第八 回 考 査 範 囲	第6章 国際社会の動向と日本の役割 第1節 国際政治の動向	16	・国際社会のしくみ ・国際平和 ・国際家財のしくみ	・国際連盟・国際連合の組織と役割が理解できている。 ・現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。 ・戦後の国際経済の流れが理解できている。	A・B・C A・B・C A・B・C
		第2節 国際政治の課題と日本の役割				
12	第九 回 考 査 範 囲	第3節 国際経済の動向と国際協力	16	探究学習	・現代社会に生きる私たちの課題を指摘できている。 ・現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できている。 ・現代社会の諸問題について、探究するための資料を収集・選択し、的確に分析できている。	A・B・C A・B・C A・B・C
		持続可能な社会作りの主体となる私たち				
	考查		1			
1	第十 回 考 査 範 囲	新年度の準備				
2	第十 一 回 考 査 範 囲					
3	第十 二 回 考 査 範 囲					

1年 数学 I

○ 学習のねらい

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培うことで的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学のよさを認識できるようにする。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

予習とは、「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。わずかな時間しか予習の時間がとれない場合でも、次の授業で学習すると思われる箇所全体に目を通しておくことは最低限必要です。

予習の段階で教科書の練習問題をすべて解く必要はありません。それよりも、前回学んだことをしっかり思い出し、次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

2 授業中～授業中の注意点～

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりとすること。理解していなくても先生の説明通り問題を解いて正解することもあります。真の実力とはいえません。理解できた、という実感が大切です。

ノートのとり方も工夫が必要です。板書事項だけではなく、先生の発言で大事なことはしっかりメモし、後から見ても十分活用できるノート作りを心掛けましょう。

3 授業後～復習～

授業で分からなかったところをそのままにしておくこと次の授業も当然分かりません。時間を見つけて、先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。

数多く問題を解くことも大事ですが質も重視してください。進学を目指す者は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は、のちに大きな力となります。

○ 評価の方法

考査は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で、問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み、実力を確かなものにして臨んでください。

定期考査の割合は70%程度を原則として、下記の観点に基づいて100点満点で総合的に評価します。

観点ごとのポイント						
I 知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。					
II 思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見て適切に変形する力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。					
III 主体的に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。					
評価の場面	考査	考査以外				
	①	②	③	④	⑤	⑥
	考査	小テスト	学習状況の観察	課題	ノート	自己評価
I 知識・技能	◎	◎				
II 思考・判断・表現	○	○		◎		
III 主体的に取り組む態度			◎	○	○	◎

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
数学	数学 I	1年 全クラス	3	改訂版 新 高校の数学 I (数研出版)	改訂版 ポイントノート 数学 I (数研出版)	105

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった							
4	第一回 考査 範囲	第1章 数と式 第1節 数と式の計算	2	1. 計算の基本	正の数、負の数の加法、減法、累乗の計算ができる。	A・B・C							
			1	2. 単項式と多項式	ある数量について、文字を使った式で表現することができる。	A・B・C							
1			3. 多項式の加法と減法	多項式の加法、減法の計算ができる。	A・B・C								
2			4. 多項式の乗法	指数法則や分配法則を用いて、多項式の乗法の計算ができる。	A・B・C								
2			5. 展開の公式	展開の公式を利用できる。	A・B・C								
3			6. 因数分解	共通因数をみつけ、共通因数のくり出しができる。因数分解の公式を利用できる。	A・B・C								
1			7. 展開、因数分解の工夫	文字のおきかえを利用して、展開や因数分解を行うことができる。	A・B・C								
3			8. 根号を含む式の計算	平方根の意味を理解している。根号を含む式の加法、減法、乗法などの計算ができる。分母を有理化することができる。	A・B・C								
1			9. 実数	有理数と無理数の違い、および実数について理解している。	A・B・C								
2			10. 確認問題	問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。	A・B・C								
5	第二回 考査 範囲	第2節 1次不等式	1	1. 1次方程式	方程式における解の意味を理解し、1次方程式を解くことができる。	A・B・C							
			2	2. 不等式	不等号の意味を理解している。不等号の性質を理解している。	A・B・C							
3			3. 不等式の解	不等式における解の意味を理解し、1次不等式を解くことができる。	A・B・C								
2			4. 確認問題	問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。	A・B・C								
第三回 考査 範囲			第2章 2次関数	第1節 2次関数のグラフ	1	1. 関数	2つの数量の関係を関数の式で表現することができる。	A・B・C					
					1	2. 1次関数のグラフ	座標について理解している。対応表を利用して、1次関数のグラフをかくことができる。	A・B・C					
					4	3. 2次関数のグラフ(1)	放物線の形や軸、頂点について理解している。 $y=ax^2+bx+c$ のグラフをかくことができる。	A・B・C					
					5	4. 2次関数のグラフ(2)	平方完成を利用して $y=ax^2+bx+c$ のグラフをかくことができる。	A・B・C					
					2	5. 確認問題	問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。	A・B・C					
					8	第四回 考査 範囲	第2節 2次方程式の値と変化	4	1. 2次関数の最大値、最小値	平方完成を利用して、2次関数の最大値、最小値を求めることができる。	A・B・C		
	3	2. グラフと2次方程式						因数分解や解の公式を利用して2次方程式を解くことができる。	A・B・C				
	3	3. グラフと2次不等式						2次関数のグラフを利用して、2次不等式を解くことができる。	A・B・C				
	3	4. 確認問題						問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。	A・B・C				
	9	第三回 考査 範囲			第3章 図形と計量			第1節 三角比	1	1. 直角三角形	直角三角形において、三平方の定理を利用して、辺の長さを求めることができる。	A・B・C	
2			2. 三角比	三角比の表を利用して、三角比の値や角を調べることができる。					A・B・C				
3			3. 三角比の利用	三角比を利用して、直角三角形の角のおよその大きさを求めることができる。					A・B・C				
3			4. 三角比の相互関係	三角比の相互関係を利用して、三角比の1つの値から残りの2つの値を求めることができる。					A・B・C				
2			5. 鈍角の三角比	鈍角の場合についても、三角比の1つの値から残りの2つの値を求めることができる。					A・B・C				
2			6. 確認問題	問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。					A・B・C				
10			第四回 考査 範囲	第2節 三角形への応用		1	1. 三角形の面積		2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。	A・B・C			
						3	2. 正弦定理		正弦定理を利用して、三角形の辺の長さや外接円の半径を求めることができる。	A・B・C			
						3	3. 余弦定理		余弦定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。	A・B・C			
						2	4. 確認問題		問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。	A・B・C			
11	第四回 考査 範囲	第4章 集合と命題			第1節 集合と命題	2	1. 集合	集合に関する記号を、適切に用いることができる。	A・B・C				
						2	2. 命題と集合	命題の意味を理解している。否定の意味及び否定を表す記号を理解している。	A・B・C				
						2	3. 必要条件と十分条件	十分条件、必要条件及び必要十分条件の意味を理解している。	A・B・C				
						2	4. 確認問題	問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。	A・B・C				
						12	第四回 考査 範囲	第5章 データの分析	第1節 データの整理	2	1. データの整理	階級、度数などの用語を理解し、データを度数分布表にまとめ、ヒストグラムをかくことができる。	A・B・C
										2	2. データの代表値	最頻値、中央値、平均値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。	A・B・C
			4	3. データの散らばり						四分位範囲や箱ひげ図をもとに、中央値の周りのデータの散らばり具合を比較することができる。	A・B・C		
			4	4. データの相関						散布図や相関表をもとに、データの相関について理解することができる。	A・B・C		
			1	5. 仮説検定の考え方						仮説検定の考え方を用いて、ある事柄が正しいかどうかを判断することができる。	A・B・C		
			2	6. 確認問題						問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。	A・B・C		
2	第四回 考査 範囲	第2節 課題学習	第1節 課題学習	1	課題学習	身近な問題に対して、積極的に数学を活用しようとするすることができる。				A・B・C			
				4	課題学習					A・B・C			
3				第四回 考査 範囲	第3章 図形と計量	第2節 三角形への応用				1	1. 直角三角形	直角三角形において、三平方の定理を利用して、辺の長さを求めることができる。	A・B・C
										2	2. 三角比	三角比の表を利用して、三角比の値や角を調べることができる。	A・B・C
							3	3. 三角比の利用	三角比を利用して、直角三角形の角のおよその大きさを求めることができる。	A・B・C			
							3	4. 三角比の相互関係	三角比の相互関係を利用して、三角比の1つの値から残りの2つの値を求めることができる。	A・B・C			
							2	5. 鈍角の三角比	鈍角の場合についても、三角比の1つの値から残りの2つの値を求めることができる。	A・B・C			
							2	6. 確認問題	問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。	A・B・C			
							10	第四回 考査 範囲	第2節 三角形への応用	1	1. 三角形の面積	2辺の長さとその間の角の大きさが与えられた三角形の面積を求めることができる。	A・B・C
										3	2. 正弦定理	正弦定理を利用して、三角形の辺の長さや外接円の半径を求めることができる。	A・B・C
	3	3. 余弦定理	余弦定理を利用して、三角形の辺の長さや角の大きさを求めることができる。							A・B・C			
	2	4. 確認問題	問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。							A・B・C			
11	第四回 考査 範囲	第4章 集合と命題	第1節 集合と命題	2	1. 集合	集合に関する記号を、適切に用いることができる。	A・B・C						
				2	2. 命題と集合	命題の意味を理解している。否定の意味及び否定を表す記号を理解している。	A・B・C						
				2	3. 必要条件と十分条件	十分条件、必要条件及び必要十分条件の意味を理解している。	A・B・C						
				2	4. 確認問題	問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。	A・B・C						
				12	第四回 考査 範囲	第5章 データの分析	第1節 データの整理			2	1. データの整理	階級、度数などの用語を理解し、データを度数分布表にまとめ、ヒストグラムをかくことができる。	A・B・C
										2	2. データの代表値	最頻値、中央値、平均値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。	A・B・C
4								3. データの散らばり	四分位範囲や箱ひげ図をもとに、中央値の周りのデータの散らばり具合を比較することができる。	A・B・C			
4								4. データの相関	散布図や相関表をもとに、データの相関について理解することができる。	A・B・C			
1								5. 仮説検定の考え方	仮説検定の考え方を用いて、ある事柄が正しいかどうかを判断することができる。	A・B・C			
2								6. 確認問題	問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。	A・B・C			
2	第四回 考査 範囲	第2節 課題学習	第1節 課題学習	1				課題学習	身近な問題に対して、積極的に数学を活用しようとすることができる。	A・B・C			
				4				課題学習		A・B・C			
3				第四回 考査 範囲				第3章 図形と計量	第2節 三角形への応用	1	1. 直角三角形	直角三角形において、三平方の定理を利用して、辺の長さを求めることができる。	A・B・C
										2	2. 三角比	三角比の表を利用して、三角比の値や角を調べることができる。	A・B・C
					3	3. 三角比の利用	三角比を利用して、直角三角形の角のおよその大きさを求めることができる。			A・B・C			
					3	4. 三角比の相互関係	三角比の相互関係を利用して、三角比の1つの値から残りの2つの値を求めることができる。			A・B・C			
					2	5. 鈍角の三角比	鈍角の場合についても、三角比の1つの値から残りの2つの値を求めることができる。			A・B・C			
					2	6. 確認問題	問題をランダムに配した「まとめ」を解く際、どの公式を使えばよいかを的確に判断できる。			A・B・C			

1年 数学A

○ 学習のねらい

場合の数と確率や図形の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ることで、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようになるとともに、それらを活用できるようにする。

○ 学習方法

1 心得

中学校で学んだ内容にも触れますが、高校での学習内容は中学と比べてより抽象的になり、理解するためには時間と努力を要します。授業をしっかり聞き、自主的に取り組むことが一番大切です。「苦手だから」や「難しいから」といって、投げ出すことのないよう、粘り強く取り組みましょう。

2 授業の前(予習)

予習では、「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。部活動等で疲れてしまっても、短い時間でも予習は行ってください。次の授業で進む分野に目を通しておくことは習慣にしてください。予習の段階で教科書の練習問題をすべて解くまでのことは求めません。前回学んだことをしっかり思い出し、次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

3 授業中(注意点)

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりとすること。理解していなくても先生の説明通りに問題を解いて正解となることもあります。それは真の実力ではありません。「理解できた」という実感を持つまで取り組むことが大切です。ノートのとり方も工夫が必要です。大事なことはしっかりメモし、時間をおいて後から見ても自分が理解できるノート作りをしましょう。

4 授業後(復習)

授業で理解したつもりでも、しばらくすると忘れてしまうものです。習ったことを確実に定着させるためには復習が大切です。授業で取り扱った問題は「その日のうちに」「何も見ないで解けるようになるまで」解き直してください。解けなかった問題や授業で分からなかったところは、絶対に放置しないで、空いている時間を見つけてできるだけ早く先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。多くの問題を解くことも大事ですが質も重視する必要があります。進学を目指す人は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は、後に大きな力となります。

○ 評価の方法

定期考査による評価は全体の70%程度を原則として、下記の観点に基づいて100点満点で総合的に評価を行います。

観点ごとのポイント	
I 知識・技能	場合の数と確率、図形の性質の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。
II 思考・判断・表現	事象を数学的に考察して推論したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。
III 主体的に取り組む態度	事象における数学的な考え方に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとしている。

評価の場面	考査	考査以外				
	①	②	③	④	⑤	⑥
	考査	小テスト	学習状況の観察	課題	ノート	自己評価
I 知識・技能	◎	◎				
II 思考・判断・表現	○	○		◎		○
III 主体的に取り組む態度			◎	○	◎	○

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
数学	数学A	1年 全クラス	2	改訂版 新 高校の数学A (数研出版)	改訂版 ポイントノート 数学A (数研出版)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査範囲	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	2	1. 集合	集合の表し方、用語、記号を理解し、記号を使って表すことができる。	A・B・C
			2	2. 集合の要素の個数	補集合、和集合の要素の個数をベン図や公式を利用して求めることができる。	A・B・C
			3	3. 和の法則、積の法則	和の法則、積の法則について、具体例を用いて理解する。	A・B・C
			4	4. 順列	順列の用語、記号、公式を理解し、具体的な問題を通じてどのような場合に順列の考え方が適用できるかを見極めることができる。	A・B・C
			5	5. 組合せ	組合せの意味や性質を理解し、公式を用いて総数を求めることができる。	A・B・C
6	考査		1	確認問題		A・B・C
	第二回 考査範囲	第2節 確率	2	6. 事象と確率	確率の意味を理解する。	A・B・C
4			7. 確率の計算	身近な事象の確率に興味・関心を持ち、簡単な確率を求めることができる。	A・B・C	
4			8. 独立な試行と確率	独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。	A・B・C	
3			9. 条件つき確率	条件つき確率の定義を理解し、確率を求めることができる。	A・B・C	
2			10. 期待値	期待値について理解し、いろいろな場合の期待値を求めることができる。	A・B・C	
8			1	確認問題		A・B・C
9	考査		1			
10	第三回 考査範囲	第2章 図形の性質 第1節 平面図形	4	1. 図形の基本	図形の基本性質を理解し、それらを用いて角の大きさや辺の長さを求めることができる。	A・B・C
			1	2. 角の二等分線と線分の比	角の二等分線と線分の比の定理を理解し、それらを用いて辺や線分の長さを求めることができる。	A・B・C
			4	3. 三角形の外心、内心、重心	三角形の外心、内心、重心の性質を用いて、具体的な問題を処理できる。	A・B・C
			2	4. 円周角の定理	円周角の定理を理解し、角の大きさを求めることができる。	A・B・C
			2	5. 円に内接する四角形	円に内接する四角形の性質を用いて角の大きさを求めたり、四角形が円に内接するかどうかを判定できる。	A・B・C
11			3	6. 円の接線	円の接線の性質を用いて、辺や線分の長さを求めることができる。	A・B・C
	考査		1	確認問題		A・B・C
12	第四回 考査範囲	第2節 空間図形	3	7. 方べきの定理	方べきの定理を用いて、線分の長さを求めることができる。	A・B・C
			2	8. 2つの円	2つの円の位置関係には5つのパターンがあることを理解している。	A・B・C
			2	9. 作図	中学校で学んだ基本的な作図を行うことができる。	A・B・C
			1	確認問題		A・B・C
2			3	1. 空間の直線、平面	2直線、直線と平面、2平面の位置関係には3種類ないしは2種類あることを理解し、それらの位置関係を示すことができる。	A・B・C
			2	2. 正多面体	多面体や正多面体の定義を理解し、それらの頂点、辺、面の数を求めることができる。	A・B・C
		課題学習	3	課題学習	既修事項を利用し、様々な現象について考察することができる	A・B・C
3		新年度の準備				

1年 生物基礎

○ 学習のねらい

・日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察・実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養うことをねらいとする。高校で初めて学習する理科学科となるので、生物に限らず、身の回りの科学というものにも目を向けてみる。本や新聞、関連するテレビ番組や動画視聴サービスなども意識して見るようにし、知識を得るだけでなく、様々なことに疑問を感じられるよう努力すること。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

- ① 予め、教科書の太字の語句をチェックし、その意味をとらえておくこと。
- ② 宿題を出すこともあるので、出された宿題は、確実に提出すること。

2 授業中～授業中の注意点～

授業に集中し、話をしっかり聞き取ってその時間内で理解することが大切です。ノートや授業プリントは板書事項だけではなく、教員が説明したことで重要なところや忘れそうなのもしっかりとメモすること。プリント類はきちんと整理し、ファイルにとじるか、ノートに貼付すること。

※実験について

- ・実験の時は早めに移動し、準備して待つこと。入室したら椅子を下ろし、白衣を着用。安全面を考慮し、白衣のボタンは必ず留めること。
- ・説明を良く聞き、頭に手順を入れてから行動すること。また常に指示が聞こえる静かさを保ちながら実験すること。実験の道具や材料は高価なものばかり。勝手な行動は厳禁。
- ・実験レポートは指示された期日を守って提出すること。未記入箇所がないよう、さらに、期限に遅れないよう、気をつけて下さい。
- ・実験を欠席（公認欠席・出席停止を含む）した時は、後日行われる追実験に必ず参加すること。追実験は内容により放課後または昼休みに実施する。

3 授業後～復習～

教科書の太字の語句をノートに書き出し、語句の意味をまとめること。小テストや定期考査に向け、問題集を活用し、復習をしっかり行うこと。基本的な事項は暗記が必要。覚えるまで何度も取り組むこと。

○ 評価の方法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は60%を原則とする。

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。							
II 思考・判断・表現	生物や生物現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。							
III 主体的に取り組む態度	生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。							
評価の場面	考査	考査以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	考査	小テスト	授業の振り返り	実験レポート	課題	授業プリント		
I 知識・技能	◎	◎		○		○		
II 思考・判断・表現	◎	◎	○	◎	○	○		
III 主体的に取り組む態度			◎	○		◎		

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
理科	生物基礎	1年 全クラス	2	改訂版 生物基礎 (数研出版)	改訂版 リードLightノート生物基礎 (数研出版) 三訂版 ニューステージ 生物図表 (浜島書店)	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考查範囲	第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性	5	生物の多様性、生物の多様性・共通性とその由来、生物の共通性としての細胞について学習する。 【実験】様々な細胞の観察	・生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。 ・生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。	A・B・C
5		2. エネルギーと代謝	2	生命活動とエネルギー、代謝とエネルギーについて学習し、その仲立ちとしてのATPについて学習する。	・生命活動にはエネルギーが必要であることを理解する。 ・細胞の生命活動のエネルギーはATPの形で供給されることを理解する。	A・B・C
6		3. 光合成と呼吸	5	呼吸と光合成について、エネルギーの流れの視点で学習する。 酵素の特徴とはたらきについて学習する。 【実験】カタラーゼのはたらき	・呼吸や光合成の過程でATPが合成されることを理解する。 ・酵素の特徴、酵素により生体内で必要な化学反応が進行することを理解する。	A・B・C
6	考查	第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA	5	遺伝情報を担う物質としてのDNAの構造や発見の歴史について学習する。	・DNAは2本のヌクレオチド鎖からなる二重らせん構造をしていることを理解する。 ・遺伝情報はDNAの塩基配列にあることを理解する。	A・B・C
7	第二回 考查範囲	2. 遺伝情報の複製と分配	4	【実験】DNA模型の制作 体細胞分裂にともなう、遺伝情報の複製や遺伝情報の分配について学習する。	・DNAが半保存的に複製されることを理解する。 ・細胞周期の進行に伴って、DNAが正確に複製され、2つの細胞に分配されることを理解する。	A・B・C
8		3. 遺伝情報の発現	6	遺伝情報とタンパク質の合成について学習する。 分化した細胞の遺伝子発現、遺伝情報と遺伝子、ゲノムについて学習する。	・タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解する。 ・個体内の細胞は遺伝的に同一だが、発現している遺伝子が細胞により異なることを理解する。	A・B・C
9		第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内での情報伝達と調節	6	体内での情報伝達には神経系と内分泌系による情報の伝達があり、からだの状態を調節していることについて学習する。	・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系によって、情報伝達と体の状態の調節が行われることを理解する。	A・B・C
10	第三回 考查範囲	2. 体内環境の維持のしくみ	6	体内環境の維持、とくに血糖濃度の調節のしくみと、血液の循環を維持するしくみについて学習する。	・ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。	A・B・C
11		3. 免疫のはたらき	6	からだを守るしくみである免疫(自然免疫、適応免疫)について学習し、免疫と病気の関係について学習する。	・からだに、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。 ・免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解する。	A・B・C
12	第四回 考查範囲	第3編 生物の多様性と生態系 第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移	5	植生および植生の遷移について学習する。	・植生の成りたちや相観について理解する。 ・植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する。	A・B・C
1		2. 植生の分布とバイオーム	6	世界のバイオームと日本のバイオームについて学習する。 【観察】樹木の観察	・世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 ・気候条件によっては、遷移の結果として森林のほかに草原や荒原にもなることを理解する。	A・B・C
2		3. 生態系と生物の多様性	5	生態系の成りたち、生態系と種多様性、生物どうしのつながりについて学習する。	・生態系の成りたちを理解する。 ・生物どうしの関係が種多様性の維持にかかわっていることを理解する。	A・B・C
3	考查	4. 生態系のバランスと保全	5	生態系のバランス、人間の活動と生態系、生態系の保全について学習する。	・生態系がもつ復元力について理解する。 ・人間活動が生態系に及ぼす影響について理解する。 ・生態系の保全の重要性について理解する。	A・B・C
3		新年度の準備				

1年 体育(男子)

○学習の目的とねらい

- 1 自分の体の状態や変化を観察しながら運動の楽しさや喜びを味わい、それらの技能を身に付けることができる。
- 2 自己や仲間の課題を見つけ、思考・判断しながら自分の考えを他者に伝えることができる。
- 3 スポーツを通して、協調性、ルールやマナーの重要性を知ることができる。

○学習方法と授業の留意点

1 授業前 ～ 予習 ～

- ・授業に向けての準備と服装を整え、ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。

2 授業中 ～ 授業中の留意点 ～

- ・常に安全に留意し、素早い行動を心掛けること。
- ・周囲をよく見て協力し、意欲的に活動すること。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○評価の方法

評価について

- ・評価は各期、以下の項目と観点に基づいて100点満点で行う。

・運動の技能、知識

- ① 技能の習得
- ② 実技等の各種テスト
- ③ ゲーム等での評価(動き)
- ④ 単元の知識 ※練習やテスト、授業の中で確認(知識が生かされた動き)を行う。
(必要に応じて筆記テストの実施)

⑤各時間での取組み状況

・思考・判断・表現

- ① 課題の把握(自己やチーム)
- ② 課題に向けた取り組みや分析(思考)
- ③ ①②の内容の他者への伝達(必要に応じてワークシートや振り返りシート等の実施)

・主体的に学習に取り組む態度

- ① 主体的に取り組もうとする態度(活動の様子、活動量、自己の体調の把握)
- ② 準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取組みの姿勢
- ③ 病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価することがある。

※評価の観点は以下のとおり。記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

観 点	評価項目	学習 状態 の 観 察	実技 ス キ ル	実技 テ ス ト	各種テスト レポート 提出物 上記に 準ずる物
I 知識・技能	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。 運動の合理的計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにする。そのために、運動の多様性や体力の必要性について理解し、その技能を身に付けている。	○	◎	◎	◎
II 思考・判断・表現	自己や仲間への課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断するとともに、考えたことを他者に伝えることができる。	◎	◎	○	◎
III 主体的に 取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康安全を確保している。	◎	○	○	○

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健 体育	体育	1学年 男子	3	新高等保健体育 改訂版 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)	105

年間授業計画

月	考 査	単元(授業展開)	授 業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった	
4	第一回 考査範囲	オリエンテーション	1	授業内容について	授業内容や評価方法について理解する。	A・B・C	
		スポーツテスト	4	50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトルラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の測定について 各種目ごとにルール等の説明を聞く	自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるのか(高校生男女別)を実践し、確認する。今後の自分の課題を見つける。 各種目ごとに、どのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C	
		体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)					A・B・C
		体操・集団行動	2	ラジオ体操、二人組の柔軟体操等 4列縦隊の列の増減、行進、駆け足	ラジオ体操の正しい順番、動きの注意点を理解し実践する。 集団での動きの合わせ方を理解し、実践する。	A・B・C	
5		陸上競技	6	短距離走、長距離走	記録の向上や競争の楽しさを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解し、技能を身に付ける。	A・B・C	
		体づくり運動	10	短縄	これから3年間運動するにあたっての基礎作り。 瞬発力や持久力を身に付ける。	A・B・C	
6	考査		2	長縄	運動を行ううえでバランスなどの巧緻性を身に付ける。 ※チームワーク(協調性)を養う。	A・B・C	
7	第二回 考査範囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)		馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身に付ける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C	
		ソフトテニス初級 (気温に応じて卓球)	10	色々なボールの打ち方について (卓球の技術練習)	ゲームをするときの打ち方の使い分けや動き方を身に付ける。 (サーブの方法や、ラリーの続け方。フォアハンドの活用の仕方について。)	A・B・C	
		フットサル初級 (体育理論を含む)	19	パス、ドリブル、シュートについて	基本的なパス、ドリブル、シュートができる。 チームワークを養う。	A・B・C	
8	考査						
10	第三回 考査範囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)		馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身に付ける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C	
		バレーボール初級 (体育理論を含む)	26	基本技術の習得とルールの理解について	ルールを理解する。アンダー・オーバーレシーブやサーブ等の基本の技術を身に付ける。	A・B・C	
11	考査						
12	第四回 考査範囲	体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと)		馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く	基礎体力を身に付ける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C	
		バスケットボール初級 (体育理論を含む)	18	基本技術の習得とルールの理解について	ルールを理解する。ドリブル・パス・シュートなど等の基本の技術を身に付ける。	A・B・C	
1							
2	考査	ニュースポーツ	7	各種目の基本技術の習得とルールの理解について	興味のある種目を選択し、身体の様々な部位を動かすことができる。	A・B・C	
3							

1年 体育(女子)

○学習の目的とねらい

- 1 自分の体の状態や変化を観察しながら運動の楽しさや喜びを味わい、それらの技能を身に付けることができる。
- 2 自己や仲間の課題を見つけ、思考・判断しながら自分の考えを他者に伝えることができる。
- 3 スポーツを通して、協調性、ルールやマナーの重要性を知ることができる。

○学習方法と授業の留意点

1 授業前 ～ 予習 ～

- ・授業に向けての準備と服装を整え、ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。

2 授業中 ～ 授業中の留意点 ～

- ・常に安全に留意し、素早い行動を心掛けること。
- ・周囲をよく見て協力し、意欲的に活動すること。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○評価の方法

評価について

- ・評価は各期、以下の項目と観点に基づいて100点満点で行う。

・運動の技能、知識

- ① 技能の習得
- ② 実技等の各種テスト
- ③ ゲーム等での評価(動き)
- ④ 単元の知識 ※練習やテスト、授業の中で確認(知識が生かされた動き)を行う。
(必要に応じて筆記テストの実施)

⑤ 各時間での取組み状況

・思考・判断・表現

- ① 課題の把握(自己やチーム)
- ② 課題に向けた取り組みや分析(思考)
- ③ ①②の内容の他者への伝達(必要に応じてワークシートや振り返りシート等の実施)

・主体的に学習に取り組む態度

- ① 主体的に取り組もうとする態度(活動の様子、活動量、自己の体調の把握)
- ② 準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取組みの姿勢
- ③ 病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価することがある。

※評価の観点は以下のとおり。記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

観 点	評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。	学習 状態 の 観 察	実技 入 技	実技 テ ス ト	各種テス ト レポ ー ト 提 出 物 上 記 に 準 ず る 物
I 知識・技能	運動の合理的計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにする。そのために、運動の多様性や体力の必要性について理解し、その技能を身に付けている。	○	◎	◎	◎
II 思考・判断・表現	自己や仲間への課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断するとともに、考えたことを他者に伝えることができる。	◎	◎	○	◎
III 主体的に 取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康安全を確保している。	◎	○	○	○

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健 体育	体育	1学年 女子	3	新高等保健体育 改訂版 (大修館書店)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)	105

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一 回 考査 範囲	オリエンテーション	1 4	授業内容について	授業内容や評価方法について理解する。	A・B・C
		スポーツテスト		50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトルラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の測定について	自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるのか(高校生男女別)を実践し、確認する。今後の自分の課題を見つける。	A・B・C
		体づくり運動(毎時間)		各種目ごとにルール等の説明を聞く	各種目ごとにどのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C
		体育理論(各種目ごと)				
5		体操・集団行動	2	ラジオ体操、二人組の柔軟体操等	ラジオ体操の正しい順番、動きの注意点を理解し実践する。	A・B・C
		陸上競技	6	4列縦隊の列の増減、行進、駆け足	集団での動きの合わせ方を理解し、実践する。	A・B・C
6		体づくり運動	10	短距離走、長距離走	記録の向上や競争の楽しさを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方などを理解し、技能を身につける。	A・B・C
		体づくり運動	2	短縄	これから3年間運動するにあたっての、基礎作り。瞬発力や持久力を身につける。	A・B・C
7	第二 回 考査 範囲	体づくり運動(毎時間)	10	馬跳び、腕立て伏せなど	基礎体力を身につける。	A・B・C
		体育理論(各種目ごと)		各種目ごとにルール等の説明を聞く	各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C
		卓球		練習の仕方について	サーブの方法や、ラリーの続け方。	A・B・C
		卓球		基本技術の習得とルールの理解について	フォアハンドの活用の仕方について。	A・B・C
8		卓球	19	練習の仕方について		
		卓球		基本技術の習得とルールの理解について		
9		フットサル初級	19	基本技術の習得とルールの理解について	ルールを理解する。	A・B・C
		(体育理論を含む)				パス、シュート、ディフェンスなどの基本的な技術を身につける。
10	第三 回 考査 範囲	体づくり運動(毎時間)	26	馬跳び、腕立て伏せなど	基礎体力を身につける。	A・B・C
		体育理論(各種目ごと)		各種目ごとにルール等の説明を聞く	各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C
11		バレーボール初級	26	基本技術の習得とルールの理解について	ルールを理解する。	A・B・C
		(体育理論を含む)				アンダー・オーバーレシーブやサービスなど基本的な技術を身につける。
12	第四 回 考査 範囲	体づくり運動(毎時間)	18	馬跳び、腕立て伏せなど	基礎体力を身につける。	A・B・C
		体育理論(各種目ごと)		各種目ごとにルール等の説明を聞く	各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。	A・B・C
1		バスケットボール初級	18	基本技術の習得とルールの理解について	ルールを理解する。	A・B・C
		(体育理論を含む)				ドリブル・パス・シュートなど基本的な技能を身につける。
2		ニュースポーツ	7	各種目の基本技術の習得とルールの理解について	興味のある種目を選択し、身体の様々な部位を動かすことができる。	A・B・C
		ニュースポーツ				
3						

1年 保健

○ 学習の目的とねらい

- 1 個人としてだけでなく、社会の一員として総合的に社会生活について理解することができる。
- 2 健康・安全に関する自他や社会の課題を発見し、解決方法を目的や状況に応じて伝えることができる。
- 3 自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりをするための態度を養うことができる。

○ 学習方法と授業の留意点

1 授業の前～予習～

- ・事前に教科書を読み、内容を把握すること。

2 授業中～授業中の注意点～

- ・教科書、保健ノートと授業で配布される教材プリント(必要に応じて)を比較・確認しながらその要点を捉えること。
- ・授業において実生活(現状)を理解し、自分の考えを他者に伝えることができる。

3 授業後～復習～

- ・プリント・ノートへの記入漏れなどがいないか確認する。

○ 評価の方法(定期考査考と観点別)

- ・定期考査は第2回・第4回の計2回行う。
- ・下記の観点に基づいて100点満点で行う。

※評価の観点は以下のとおり。※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

観 点	評価項目	学習状態 の観察	提出物 (ノートやレポート または、それに 準ずる物)	定期考査
	身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。			
I 知識・技能	現代社会と健康の各分野について、個人や社会的な対策が必要であることを理解している。 安全な社会づくりのために、必要な事項を理解している。 応急手当について理解し、適切に行う技能を身に付けている。	○	◎	◎
II 思考・判断・表現	現代社会と健康・安全な社会生活について、各分野における原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考えるとともに表現している。	○	◎	◎
III 主体的に 取り組む態度	現代社会と健康・安全な社会生活の各分野について、学習に主体的に取り組もうとしている。	◎	◎	

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
保健体育	保健	1年 全クラス	1	新高等保健体育 (大修館書店)	新高等保健体育ノート (大修館書店)	35

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時 数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第二回 考査 範囲	オリエンテーション	1	1年間の予定授業の進め方等の説明を聞く	1年間の流れと評価(考査2回など)を理解する。	A・B・C
		現代社会と健康	1	日本における健康のとらえかたについて	日本における健康課題や、その背景について理解する。	A・B・C
5	考査 範囲	1 日本における健康課題の変遷	1	健康に関する考え方	健康のとらえかたの変化や健康が成立する要因について理解する。	A・B・C
		2 健康の考え方や成り立ち	1	ヘルスプロモーションの考え方	ヘルスプロモーションの考え方を理解し、健康を保持増進するための環境づくりの重要性について知る。	A・B・C
6	考査 範囲	3 ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり	1	健康に関する意思決定・行動選択について	健康における意思決定や行動選択の関係を理解し、より良い方法を知る。	A・B・C
		4 健康に関する意志決定・行動選択	1	感染症の流行とその要因について	感染症流行の社会的背景について知る。新興感染症・再興感染症について知る。	A・B・C
7	考査 範囲	5 現代社会における感染症の問題	2	感染症の予防について	感染症予防の三原則を知り、予防に必要な社会および個人の取り組みについて理解する。	A・B・C
		6 感染症の予防	1	性感染症やエイズについて	性感染症、エイズについて理解し、正しい予防方法や社会的な取り組みについて理解する。	A・B・C
8	考査 範囲	7 性感染症・エイズの予防	2	生活習慣病について	生活習慣病のリスク軽減や予防に必要な個人の取り組みについて・予防や回復のために必要な社会の取り組みについて理解する。	A・B・C
		8 生活習慣病の予防と回復	1	身体活動・運動の重要性について	身体活動・運動と健康の関係について理解し、継続的な実践に必要な個人・社会の取り組みについて知る。	A・B・C
9	考査 範囲	9 身体活動・運動と健康	1	食事の重要性について	食事と健康の関係について理解し、健康的な食事の実践に必要な個人・社会の取り組みについて知る。	A・B・C
		10 食事と健康	1	休養と睡眠の重要性について	休養・睡眠と健康の関係について理解し、個人・社会の取り組みについて知る。	A・B・C
10	考査 範囲	11 休養・睡眠と健康	1	「がん」について	「がん」の種類や発生要因を理解し、予防や回復に必要な個人・社会の取り組みについて知る。	A・B・C
		12 がんの予防と回復	1	喫煙と健康の関係性について	喫煙による健康への影響について理解し、健康被害の防止に必要な個人・社会の取り組みについて知る。	A・B・C
11	考査 範囲	13 喫煙と健康	1	飲酒と健康の関係性について	飲酒による健康への影響について理解し、健康被害の防止に必要な個人・社会の取り組みについて知る。	A・B・C
		14 飲酒と健康	1	薬物と薬物乱用について	薬物乱用による健康・社会への影響について理解し、薬物乱用の防止に必要な個人・社会環境への対策について理解する。	A・B・C
12	考査 範囲	15 薬物乱用と健康	2	精神疾患について	代表的な精神疾患について理解し、発症や回復のポイントについて理解する。	A・B・C
		16 精神疾患の特徴	2	精神疾患への対応について	予防や早期発見・治療・支援など適切な対応について理解し、心の健康の重要性を知る。	A・B・C
1	考査 範囲	17 精神疾患への対応	2	交通事故について	事故と被害の実態について理解し、事故の発生要因について知る。	A・B・C
		18 事故の現状と発生要因	2	交通事故の防止について	交通事故防止のために必要なことを理解し、事故には法的責任が生じることを知る。	A・B・C
2	考査 範囲	19 交通事故防止の取り組み	2	安全な社会形成に必要とされることについて	安全な社会をつくり、継続させるために必要な取り組みや環境整備について知る。	A・B・C
		20 安全な社会の形成	1	応急手当の意義と救急医療体制について	応急手当の意義と、手順・方法を身に付ける必要性について理解する。また、救急医療体制の仕組みと社会的整備の必要性、利用法について知る。	A・B・C
3	考査 範囲	21 応急手当の意義と救急医療体制	1	心肺蘇生法について	心肺蘇生法の意義や方法、手順について理解する。	A・B・C
		22 心肺蘇生法	2	ケガや、熱中症の基本的な応急手当について	日常生活で起こるケガの応急手当や、熱中症の予防法・応急手当について理解する。	A・B・C
3	考査 範囲	23 日常的な応急手当	1	新年度への準備		A・B・C

1年 音楽 I

○ 学習のねらい

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力の育成を目指す。音楽 I では、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるとともに、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができるように、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

○ 学習方法

1、授業の前～予習～

予習はありませんが、小中学校で学習してきた音楽の基礎基本は必要です。覚えていること等は授業の中で活かせるようにしましょう。また、それぞれの分野（歌唱・器楽・創作・鑑賞）での取り組みに関して、自分でできること、歌うならば姿勢や声量など意識して取り組むようにしてください。遅刻は厳禁です。時間をよく見て音楽室へ移動してください。

2、授業中～授業中の注意点～

- ① 教科書・筆記用具を忘れないようにすること。
- ② 実技ですので、取り組み姿勢や先生からの指示や注意事項をきちんと聞くこと。
- ③ 楽器を使用する授業があります。楽器類は大切に扱うようすること。
- ④ 実技演奏もあります。授業で取り組んだ成果を出してください。
- ⑤ レポート提出もあります。期日を守って提出すること。

3、授業後～復習～

授業で取り組んだ内容を頭の片隅に記憶しておきましょう。そしてその時に感じたことや思い、難しい部分などを覚えて、次回に生かしてください。「宿題」になる課題もありますので、忘れずに。

○ 評価の方法

考查は実施しません。実技練習等への取り組み状況、ワークシート提出、実技などで評価します。期ごとの授業分野内容によって異なるところがありますが、おおむね実技評価が4割～6割、実技練習等への取り組み状況が2割～3割、ワークシート評価が2割～3割となります。

観点ごとのポイント					
I 知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わりを理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けようとしている。				
II 思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関わりについて考え、どのように表すか表現意図をもったり、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。				
III 主体的に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。				
評価の場面	①	②	③	④	⑤
	学習状況観察	ワークシート	小テスト	レポート	実技テスト
I 知識・技能		◎	◎	○	◎
II 思考・判断・表現	○	◎	○	◎	◎
III 主体的に取り組む態度	◎	◎			○

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
芸術	音楽 I	1年 選択	2	高校生の音楽 I 教育芸術社	なし	70

年間授業計画

月	考查	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった	
4	第一回 考查範囲	①正しい発声を身に付けて、豊かな響きで歌おう	6	呼吸・姿勢・発声の基礎を学び、斉唱・合唱で響きをつくる。 発声練習を通して、息の流れを安定させて響かせて歌う。 歌詞の内容と曲想の関係を捉え、2部で協調して歌う。	安定した息の流れで歌い、曲想に合う表現を工夫できる。 呼吸と発声を整え、豊かな響きで歌える。	A・B・C	
		①-1 斉唱「校歌」					
		①-2 2部合唱「翼をください」				他声部を聴き、ハーモニーを意識して表現できる。	
		②楽譜を正しく読めるようになる	4	音の高さ・長さ・休符、ト音譜表の音名、用語・記号を学ぶ。 練習曲で読み取りを行い、記号や用語を根拠に表現を工夫する。	読譜の基礎を身に付け、歌唱・器楽の表現に生かせる。 楽譜情報から曲のイメージをもち、表現を具体化できる。	A・B・C	
5	第二回 考查範囲	②-1 練習曲第1番/魔法みたいに	4	拍・拍子・リズムを学び、躍動感のあるリズム・パターンを表現する。	拍感を保ち、正確にリズムを合わせて演奏できる。	A・B・C	
		③リズム・アンサンブルを楽しもう	4	《クラッピング・カルテット》で役割と構造を理解して演奏する。	構造を意識し、仲間と協調してリズムを合わせられる。	A・B・C	
		③-1 クラッピング・カルテット第1番				知覚・感受したことを根拠に、特徴を説明できる。	
		③-2 音楽って何だろう?リズム				協働して作品を創作し、意図をもって演奏・発表できる。	A・B・C
6	第三回 考查範囲	④4パートのリズム・アンサンブルをつくろう	4	リズム・パターンを考え、音色(手拍子・打楽器等)と構造を工夫する。 作品を交換して演奏し合い、意見交換で改善点を見付ける。	振り返りを通して表現を深め、次の創作に生かせる。	A・B・C	
		④-1 リズム・アンサンブル作品の創作・発表					
		考查	なし				
		7	第四回 考查範囲	⑤日本語で歌おう(この道/きびしいカシの木)	4	日本語の発音(母音・子音)の特徴を踏まえ、歌詞と曲想を結び付けて歌う。	日本語の響きを意識し、曲にふさわしい発声と表現を工夫できる。
⑥音楽って何だろう?(人間と音楽/《4分33秒》)	4			身の回りの音を聴き、《4分33秒》の体験を通して「音楽とは何か」を考える。	自分の考えを根拠とともにまとめ、対話を通して深められる。	A・B・C	
⑦ジャワ・ガムランについて学ぼう	4			ガムランの楽器の役割、骨格旋律、リズム構造を学び、風土との関わりを考える。 《ランチャラン・マニヤルセウ》を聴き、音楽要素の組み合わせを捉える。	構造と文化的背景を踏まえて、特徴を説明できる。 感じ取ったことを整理し、自分の言葉で伝えられる。	A・B・C	
⑦-1 《ランチャラン・マニヤルセウ》							
8・9	第五回 考查範囲	⑧大地讃頌を合唱し、表現を工夫しよう	4	詩の内容と各楽章の関連を理解し、《大地讃頌》の表現を工夫する。 オーケストラ版とピアノ伴奏版を比較し、根拠をもって表現を考える。	作品に込められた思いを捉え、合唱表現に生かせる。 表現の違いを説明し、合唱にふさわしい工夫ができる。	A・B・C	
		⑧-1 詩と曲想を踏まえた合唱表現					
		考查	なし				
		10	第六回 考查範囲	⑨外国語歌曲と声楽文化を味わおう	10	外国語歌曲・声楽作品を通して、言語の特性と音楽表現の関わりを学ぶ。 声楽史の流れを捉え、各時代の声楽作品の特徴や魅力を鑑賞する。	言語と音楽の関係を踏まえ、表現を創意工夫できる。 時代様式の特徴を根拠をもって説明できる。
⑨-1 声楽の歴史と魅力を知ろう							
⑨-2 イタリア語で歌おう(Santa Lucia/Bella ciao/Caro mio ben)						言葉のリズムと旋律の関係を踏まえ、表現を工夫できる。	
⑨-3 オペラ鑑賞(《トゥーランドット》)						鑑賞で捉えた特徴を言語化し、表現に生かせる。	
11	第七回 考查範囲	⑨-4 アリア《Nessun dorma》に挑戦		《Nessun dorma》の歌詞と曲想を踏まえ、表現豊かに歌う。	曲の雰囲気や合う表現を自分で考えて実践できる。		
		⑨-5 ドイツ語で歌おう(Heidenröslein比較)				違いを理解し、表現の工夫を使い分けられる。	
		⑩管弦楽曲を探究しよう	8	物語の情景を想像しながら、構成と歌詞を踏まえて、管弦楽の表現を鑑賞する。 物語の情景を思い浮かべ、登場要素がどのように音で表現されるか探究する。 曲の構成と歌詞を理解し、独唱・合唱・管弦楽による壮大な音楽を鑑賞する。	音楽表現の工夫を具体的に説明し、曲に込められた思いを対話で深める。 音楽表現の工夫を具体例で説明できる。	A・B・C	
		⑩-1 交響詩《魔法使いの弟子》で物語と音楽を探究しよう					
12	第八回 考查範囲	⑩-6 ベートーヴェン《交響曲第9番》第4楽章を鑑賞しよう			曲に込められた思いを考え、対話で深められる。		
		考查	なし				
		⑪日本の伝統音楽・創作・鑑賞を深めよう	7	日本の伝統音楽や創作・鑑賞を関連付け、多様な音楽文化を総合的に学ぶ。 箏の構造・奏法・縦譜を学び、唱歌を用いて旋律の流れを理解し演奏する。 追吹・竜笛の唱歌をまねて唱え、輪奏や歌唱で雅楽の特徴に親しむ。	文化的背景を踏まえ、音楽のよさを多面的に捉えられる。 間や余韻を意識し、唱歌と奏法を結び付けて表現できる。 唱歌を通して特徴を感じ取り、表現に生かせる。	A・B・C	
		⑪-2 箏の唱歌を学び、演奏に生かそう(《六段の調》初段)					
1	第九回 考查範囲	⑪-3 雅楽に親しもう(舞楽《陵王》/神楽歌(其駒))					
		ギターでコード伴奏をしよう	11	基本奏法・基本コードを学び、ギターの簡単なコード伴奏に取り組み。 基本コード(例:Em・Am・C・Gなど)/コードチェンジ練習/テンポ維持 ストロークパターン(例:↑↓、アクセント)/リズム型の選択/強弱/ノリ	基本コードを拍に合わせて切り替え、簡単な伴奏ができる。 正しいフォームで、開放弦や1〜2本弦の簡単なパターンを安定して鳴らせる。 曲想に合う伴奏パターンを選び、強弱やアクセントを工夫して表現できる。	A・B・C	
		⑩-1 基本フォームと奏法					
		⑩-2 基本コードとコードチェンジ					
2	第十回 考查範囲	⑩-3 伴奏パターンの工夫		基本コード(例:Em・Am・C・Gなど)/コードチェンジ練習/テンポ維持 課題曲(コード3〜4種程度)の通し練習/歌・他パートと合わせる/振り返り	2〜3種類のコードを、拍に合わせて途切れずに切り替えられる。 他者でテンポ・入りを揃え、曲全体を通して伴奏できる。改善点を言語化できる。		
		⑩-4 課題曲の伴奏・合奏と発表					
		考查	なし				
		3	新年度の準備				

1年 美術 I

○ 学習のねらい

美術の幅広い創造的活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

・教科書等の予習は必要ありませんが、自然や生活の中の造形の美しさを感じ取ったり、優れた絵画や映像、デザインに触れる機会を積極的に持つなど、日頃から自己の感性を磨くことを薦めます。また、課題の前に関連する分野を様々な媒体を使って自分で調べてみることもアイデアを出すヒントとなります。

・筆記用具や課題ごとに指示された用具は授業の前に各自で準備するようにしてください。遅刻は厳禁です。

2 授業中～授業中の注意点～

・授業では多様な表現を学び、自分の作品として仕上げていきます。常に“主体的に”集中して授業に取り組み、完成までの見通しを持って課題に取り組むことが何より大切です。また、用具の手入れや後片付け、身の回りの清掃等は声掛けがなくともしっかり行ってください。夏場等の指示された時以外は飲食物の持ち込みは禁止となります。

3 授業後～復習～

・各課題で、各自の意図や意欲をみる「コンセプト記入用紙/自己評価(振り返り)」の記入があります。出来上がった作品の完成度だけでなく、どれだけ考えて(意図を持って)制作したかということも作者の制作過程を見る上で重要なことと考えています。

○ 評価の方法

・各期の課題(提出作品、アイデアスケッチ・下図・鑑賞等のワークシート、小テスト、コンセプト用紙/自己評価等)と授業への取り組み(課題理解、関心・意欲・態度、主体性、準備・片付け等)を100点満点で評価する。

評価の観点								
I 知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、造形的に表そうとしている。							
II 思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしようとしている。							
III 主体的に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活を創造しようとしている。							
評価の場面	課題						授業への取り組み	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	作品	アイデア スケッチ・ 下図	鑑賞 課題	小テスト	コンセプ ト用紙	自己 評価等	準備・ 片付け	学習状況 の観察
I 知識・技能	◎	◎	○	◎	○			○
II 思考・判断・表現	◎	◎	◎	◎	◎	○		◎
III 主体的に取り組む態度	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
美術	美術 I	1年 選択	2	美術 I (光村図書出版)	なし ()	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解(実践)できた B:まあまあ C:理解(実践)できなかった	
4	第一回 考査範囲	ガイダンス	2	年間計画説明/美術の各分野について ・造形基礎理論(色彩・構図・感覚) ・鑑賞(教科書・映像作品鑑賞)	・美術の各分野に対する自身の興味や傾向を分析し、自己理解を図る。 ・感覚テスト等で色彩や構図の効果を感じ、各自が造形理論をフィードバックする。 ・教科書や映像の作品について、深く考察し、その良さや美しさについて自分の言葉で論述する。	A・B・C A・B・C A・B・C	
		基礎デッサン1	3	トーンバリエーションスケール作成	・鉛筆の種類や道具の特性を理解し、トーンを段階に描き分ける。	A・B・C	
		基礎デッサン2	6	立方体デッサン演習	・等角図法による立方体の制作手順を体得する。 ・明暗の序列、立体感、空間感の観点を理解し、実感を伴う素描表現を身に付ける。	A・B・C A・B・C	
5		映像メディア表現 「写真表現」	7	・カメラによる撮影・構図の工夫	・身の回りにもや風景を構図による見え方の違いを意識して写真で切り取り、新鮮な表現を生み出す。 ・互いの写真を鑑賞し、創造的な見方・考え方で、意見を述べ合い、各自の作品を捉え直す。 ・制作意図等をワークシートに明確に記述する。	A・B・C A・B・C A・B・C	
		考査	なし				
7	第二回 考査範囲	絵画 「西洋美術鑑賞」	2	・映像鑑賞(小テスト)	・各作品の精神面・造形面の制作意図や制作姿勢の違いを読み取り、自分の言葉で論述する。	A・B・C	
		「写真から描く風景画」 キャンバスに描くアクリル画	15	意図に応じたアクリル表現の可能性を追求する。 ・木炭デッサンの手法、地塗りの効果について ・構図、色彩、マチエールについて ・制作意図のプレゼンテーション、鑑賞における観察・論述について	・構図、色彩、マチエールの効果を理解し、各自の意図に応じた画面構成をエスキースの段階で十分検討する。仕上がりを想定した地塗りの効果について理解する。 ・対象をよく観察し、木炭による明暗表現を適切に行い、空間感と実感が伴うデッサンを施す。 ・色彩やマチエール等で意図に応じたアクリル表現を工夫、実践する。 ・制作意図や工夫点等の詳細をコンセプト用紙に明確に記述する。 ・他者の作品を鑑賞し、作品の良さや造形的意図を感じ取り、自分の言葉で論述する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C	
			8				
			9				
10	第三回 考査範囲	等角図法演習	5	基礎デッサンの観点を応用し、平面図から立面図を描き起こす。適切な明暗表現で空間的に表現する。	・課題の条件を理解し、立体の形態、立体感、空間感を正しく想定し、実感が伴う明暗表現で鉛筆デッサンを行う。	A・B・C	
		クラフトデザイン 木工「ペーパーナイフ」	12	日常的な道具の制作を通して、素材を生かし、機能性と美しさを兼ね備えた「用の美」の追求を目指す。 ・道具について/用と美の世界観 ・日本文化と木の関わり ・材料や用具の特性と扱い方	・機能美に配慮して形を構想し、適切にスケッチや製図を行う。 ・意図に応じて材料や用具を効果的に使用し、実際の使用感や強度などを加味し、仕上げの美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図や構造の工夫等を明確に示す。 ・道具の扱いに注意し、片付けをしっかりと行う等、安全で計画的な制作態度を養う。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C	
		考査	なし				
12	第四回 考査範囲	グラフィックデザイン 「CIデザイン」 仮想企業のロゴ・シンボル マークのデザイン	16	マークの目的、形態の構成や色彩等の造形要素の働きを加味しながら、創造的な表現の構想を練る。 ・CIデザイン上の観点 ・マークの目的、機能、歴史 ・構成技法、配色について ・用具の特性と扱い方	・独自性や象徴性、造形性を加味しデザインを構成する。 ・日本や諸外国等の優れたマークの造形的な良さや社会的な役割、論理性を理解する。 ・デザインの構成理論、配色の色彩理論を理解する。 ・用具の特性を理解し、可読性や仕上げの美しさを追求する。 ・コンセプト用紙に制作意図を詳細に分かりやすく記述する。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C	
		日本の美術 「箔講座」	2	・日本美術の特徴、歴史 ・金箔と白描画の技法	・日本美術の特性やその良さを理解する。 ・古典作品の特徴や美意識を作品の構図や表現に生かす。	A・B・C A・B・C	
3		考査	なし				
		新年度の準備					

1年 英語コミュニケーション I

○ 学習のねらい

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、5つの領域(聞くこと・読むこと・話すこと[やりとり]・話すこと[発表]・書くこと)において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

ベーシックノートを使用して、各レッスンの新出単語の意味を調べる。辞書を十分に活用する。

発音に注意し、できるだけ多く音読練習をする。

2 授業中～授業中の注意点～

教科書・授業用ハンドアウト・辞書・ベーシックノートを用いて授業を行うことが中心になる。各レッスンのストーリーがどのように展開されていくのか、段落ごとの関係性を把握しながら読む。各レッスンの既習した内容のペーパーテスト及び教科書の学習内容に準じたパフォーマンステストを実施する。

3 授業後～復習～

授業で使用したベーシックノートや授業用ハンドアウトの内容を復習する。

○ 評価の方法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は70%を原則とする。

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	外国語の4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。 外国語の学習を通して、言語の働きや役割などを理解している。							
II 思考・判断・表現	場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。							
III 主体的に取り組む態度	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。							
評価の場面	考査	考査以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	考査	教科書に関わる小テスト	課題提出	課題テスト	言語活動に取り組む姿勢	パフォーマンステスト1	パフォーマンステスト2	
I 知識・技能	◎	◎		○		○	○	
II 思考・判断・表現	○	○			○	○	○	
III 主体的に取り組む態度			○		◎	◎	◎	

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
英語	英語コミュニケーションⅠ	1年全クラス	3	Revised COMET English Communication I (数研出版)	・改訂版COMET English Communication I ベーシックノート(数研出版) ・Enjoy!ドリルで英文法 改訂版(美誠社)	105

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回考査範囲	Lesson 1 From the Window of the Shinkansen?	8	オーストラリア出身のALTが休暇中に新幹線に乗った経験を話す	・ジョーンズ先生の新幹線乗車の旅の経験についての文章を読み、要点を把握することができる。また、過去形の構造や用法を理解する。 ・思い出に残っている経験の内容を理解し、書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
		Lesson 2 Miniature Art:The World of Tanaka Tatsuya	8	ミニチュアアート作家、田中達也さんの作品と仕事に対する姿勢を知る	・ミニチュアアート作品やその制作を理解し、話し手の意図を把握することができる。また、進行形の構造や用法を理解する。 ・自分の好きなこと・熱中していることについて、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
		Lesson 3 Onigiri Goes Overseas	8	日本のおにぎりの海外での人気について、ハルカが学校新聞に記事を書く	・日本の文化について必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。また、助動詞の構造や用法を理解する。 ・日本の文化について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
5	第二回考査範囲	Lesson 4 Pictograms	11	東京五輪をきっかけに世界でも一般的になったピクトグラムについて、リョウタがスピーチをする	・ピクトグラムについての文章を読み、要点を把握することができる。また、不定詞(名詞用法・形容詞用法・副詞用法[目的])の構造や用法を理解する。 ・身の回りにあるピクトグラムについて、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
Lesson 5 Morita Yuko Hospital Facility Dog Handler		11	病院で子どもたちを癒すファシリテッドッグの日本初のハンドラー、森田さんへのインタビュー	・ファシリテッドッグのハンドラー森田優子さんについての文章を読み、要点を把握することができる。また、動名詞(主語・補語・目的語として)の構造や用法を理解する。 ・興味のある職業について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C	
Lesson 6 Convenience Stores: Keys to Their Success		11	コンビニエンスストアが商品売るための工夫について、ハルカが研究発表を行う	・コンビニエンスストアの成功について必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。また、that-節の構造や用法を理解する。 ・自分の好きな店やよく行く店について、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C	
6	考査					
7	第三回考査範囲	Lesson 7 High School Beekeepers	11	高校の養蜂部で活動するナナミの日記	・高校の養蜂部での活動についての文章を読み、要点を把握することができる。また、現在完了(継続・経験・完了)の構造や用法を理解する。 ・自分たちの学校について、考えをまとめて紹介文を英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
8		Lesson 8 Smart Farming	11	スマート農業に関するウェブサイトの記事	・新しいテクノロジーを用いた製品について必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。また、受け身の構造や用法を理解する。 ・生活を快適にするテクノロジーについて、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
9		Lesson 9 Food Waste	11	食品廃棄の問題について、ダイキが学校新聞に記事を書く	・食品廃棄の問題についての文章を読み、要点を把握することができる。また、比較の構造や用法を理解する。 ・食品廃棄を減らす取り組みについて、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
10	第四回考査範囲	Lesson 10 William and His Windmill	11	電気もない貧しいアフリカの農村で、独学で発電のための風車を作った少年ウィリアム・カムクワンバの実話	・独学で発電の風車を作ったウィリアム・カムクワンバについて必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握することができる。また、関係代名詞(who / which / that)の構造や用法を理解する。 ・地域のために自分なら何ができるかについて、英語で書く/発表することができる。	A・B・C A・B・C
11		考査				
12		Lesson 11 New Year Preparation				
1	考査					
2		新年度の準備				
3						

1年 論理・表現 I

○ 学習のねらい

多様化している生徒の実態を考慮し、中学校までの学習を踏まえ、中・高の接続を円滑に行う。3つの領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた総合的な言語活動を通して、「話すこと(やりとり)」「話すこと(発表)」「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化し、特に論理的に発表する能力を育成する。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

サブノートを使用し、各レッスンの学習項目を確認する。

2 授業中～授業中の注意点～

教科書を用いて授業を行うことが中心になる。

3 授業後～復習～

サブノートを使用し、確認する。

○ 評価の方法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は70%を原則とする。

観点ごとのポイント								
I 知識・技能	3つの領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた総合的な言語活動を通して、論理的思考力や批判的思考力を理解している。							
II 思考・判断・表現	コミュニケーション活動や体験を通して、他者を受け入れ、個人の価値を尊重することのできる豊かな心を育成する。							
III 主体的に取り組む態度	自分の考えや自分たちの文化を外に発信していける力を培い、学んだ内容の深化・発展に積極的に取り組む。							
評価の場面	考査	考査以外						
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
	考査	小テスト	学習状況の観察	提出物	パフォーマンス1	パフォーマンス2		
I 知識・技能	◎	◎	○		◎	◎		
II 思考・判断・表現	◎	◎			◎	◎		
III 主体的に取り組む態度			◎	◎	◎	◎		

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時間数
英語	論理・表現 I	1年全クラス	2	My Way Logic and Expression I New Edition (三省堂)	My Way Logic and Expression I New Edition サブノート (三省堂)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回考査範囲	Lesson 1 Let's Talk about Ourselves	8	・現在形 (be動詞・一般動詞)	・be動詞や一般動詞の現在形の特徴やきまりに関する事項を理解でき、それを用いて自己紹介できる。	A・B・C
5		Lesson 2 School Life	8	・過去形 (be動詞・一般動詞) ・現在進行形・過去進行形	・動詞の過去形、現在進行形や過去進行形の特徴やきまりに関する事項を理解でき、身近な人や物事に関する説明文を発話し、書くことができる。	A・B・C
6		考査		1		
7	第二回考査範囲	Lesson 3 The Arts	5	・未来表現 ・基本時制のまとめ	・未来表現や基本時制(現在、過去、未来)の特徴やきまりに関する事項を理解でき、事実や自分の考えを発話し、書くことができる。	A・B・C
8		Lesson 4 Food and Culture	6	・現在完了形①(完了・経験) ・現在完了形②(継続)・現在完了進行形	・現在完了形(完了、経験、継続)や現在完了進行形の特徴が理解でき、気持ちを表現できる。	A・B・C
9		Lesson 5 Welcome to Our Town	6	・助動詞 ・受動態	・助動詞や受動態の特徴を理解でき、基本的な用法を理解し作文できる。	A・B・C
10	第三回考査範囲	Lesson 6 Traveling Abroad	5	・不定詞①(名詞的・形容詞的用法) ・不定詞②(副詞的用法・原形不定詞)	・不定詞の3用法を区別して理解でき、それを用いて発話したり作文できる。	A・B・C
11		Lesson 7 Sports	6	・動名詞 ・分詞の後置修飾・分詞構文	・動名詞と不定詞の共通項が理解でき、分詞構文を用いて発話したり、作文できる。	A・B・C
12		Lesson 8 Everyday Technology	6	・比較①(比較級) ・比較②(最上級・同等比較)	・比較級の基本的用法が理解でき、比較級を用いて最上級を表すことができることを理解できる。	A・B・C
12	考査		1			
1	第四回考査範囲	Lesson 9 Take Care	8	・関係代名詞①(主格、目的格) ・関係代名詞②(目的格の省略)	・関係代名詞の基本が理解でき、どのような場合に省略できるかを理解できる。	A・B・C
2		Lesson 10 SDGs-Take Action!	8	・関係副詞 ・仮定法	・関係代名詞との違いが理解できる。仮定法と現実法の違いが理解でき、作文できる。	A・B・C
3	考査		1			
3		新年度の準備				

1年 情報 I

○ 学習のねらい

・具体的な問題の発見・解決に行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を活用するための力を養い、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成する。

○ 学習方法

1 授業の前～予習～

・教科書を本文だけではなく、図や注釈なども含めてよく読みましょう。

2 授業中～授業中の注意点～

・座学の授業では、ワークシートに授業の内容を記入して毎回提出する。記入漏れや間違いがあった場合に再提出する。

・実習の授業では、例題に取り組んだ後、発展問題に取り組む。授業では、集中し、ポイントを理解する。

3 授業後～復習～

・教科書を読み、ワークシートの振り返りをする。

・情報社会に主体的に参画するには、情報に関する知識と技能の習得が大切なので、定期考査前だけでなく、日頃から予習・復習に取り込むこと。

○ 評価の方法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は60%以上を原則とする。

観点ごとのポイント	
I 知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身に付けているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。
II 思考・判断・表現	事象と情報とその結び付きの観点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
III 主体的に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。

評価の場面	考査	考査以外				
	①	②	③	④	⑤	⑥
	考査	学習状況 の観察	プレゼン ション	課題	ワーク シート	作品
I 知識・技能	◎		○			○
II 思考・判断・表現	○		◎	○		◎
III 主体的に取り組む態度		○	○	○	◎	○

※記号の凡例(◎:特に重視する、○:重視する)

教科	科目	クラス	単位	使用教科書(発行所)	使用副教材(発行所)	総時数
情報	情報 I	1年 全クラス	2	最新情報 I 新訂版 (実教出版)	最新情報 I 新訂版学習ノート(実教出版) パーフェクトガイド情報 office2021 対応 (実教出版)	70

年間授業計画

月	考査	単元(授業展開)	授業 時数	主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか?	到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。	自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった
4	第一回 考査 範囲	オリエンテーション	16	授業の進め方、評価、情報処理室の使い方について		
		第1章 情報社会と問題解決 1 情報と社会の発展 2 情報技術が築く新しい社会 3 情報の特性		・情報について学ぶ意味について確認する。 ・新しい情報技術が、どう利用されているかを知る。 ・人工知能(AI)など新しい情報技術について理解し、どのような社会的課題を解決できるか考える。 ・情報の特性、活用の際の注意点について理解する。 ・情報の特性について理解する。	・情報や情報技術が社会に果たす役割やこれからの情報社会についてインターネットなどで調べようとしている。 ・AI, IoT, VR, ARなど、新しい情報技術について理解している。 ・新しい情報技術によって、どのような社会的課題が解決できるか、事例をあげることができる。 ・情報の残存性、複製性、伝播性など、情報の特性について理解している。 ・情報の特性を活用した事例と、情報の特性によって生じる問題点の事例をあげることができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
		4 情報のモラルと個人に及ぼす影響		・情報社会のモラルやマナーを確認し、個人にあたる影響について理解する。	・SNSの活用など、不特定多数を対象としたコミュニケーションを行う際の注意点をあげることができる。	A・B・C
5	第二回 考査 範囲	2 知的財産と個人情報 1 知的財産 2 情報の利用と公開 3 個人情報の保護と管理 4 サイバー犯罪とその対策	16	・メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択することができる。 ・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。 ・個人情報を適切に管理し、保護するための意義や方法について理解している。 ・サイバー犯罪とは何か、また、どのように対策すればよいかを理解する。	・文字、図形、音声、静止画などの各表現メディア、情報メディア、伝達メディアの特性について理解している。 ・文書の基本的な使い方について理解するとともに、実際に報告書やレポートを作成することができる。 ・個人情報保護法で定められた個人情報や、日常的に扱う個人に関する情報とその管理について理解している。 ・おもなフィルタリングの種類やサイバー犯罪の種類と事例について説明することができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
		3 問題解決 1 問題解決の手順と発見 2 問題の明確化と解決案 3 問題解決の実施と評価		・問題の発見とその解決に至るまでにはどのような手順で行えばうまく進むか理解する。 ・どのように問題を明確にし、目的と目標を設定すれば解決案を作り、実行するかを理解する。 ・問題解決の実施と評価の方法について理解する。	・問題や問題解決の意味、問題解決の手順について理解している。 ・問題解決の目的や制約条件を考え、問題の構造を分析して、適切に目標を設定することができる。 ・必要な情報を整理して、問題の解決案を比較・検討するための資料を作成することができる。 ・問題解決を評価するための資料を作成し、自己評価や相互評価など多様な方法で評価することができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
		考査		1		
7	第二回 考査 範囲	第2章 コミュニケーションと情報デザイン 1 メディアとコミュニケーション 1 メディアの機能	17	・メディアの機能と分類について理解する。 ・メディアの機能や分類について理解し、メディアの発達について知る。	・メディアの機能について説明することができる。 ・さまざまなメディアを分類することができる。	A・B・C A・B・C
		2 メディアの特性 3 コミュニケーションの形態		・表現・情報・伝達のそれぞれのメディアには、どのような特性があるかを知る。 ・コミュニケーションを行う際の適切な方法や、その際に用いる適切なメディアの選択を理解する。	・文字、図形、音声、静止画などの各表現メディア、情報メディア、伝達メディアの特性についてそれぞれ説明することができる。 ・発信者と受信者の人数、位置関係、同期性によるコミュニケーションの分類について理解している。	A・B・C A・B・C
		4 インターネットのコミュニケーション		・インターネット上には仕組みやサービスがあり、どのようなことに注意して利用したらよいかを理解する。	・電子メール、SNSなど、インターネットを利用する各種メディアとその特性について説明することができる。	A・B・C
8	第三回 考査 範囲	2 情報デザイン 1 社会の中の情報デザイン	17	・社会の中にある情報デザインには、どのようなものがあり、情報デザインが人や社会に果たしている役割について理解する。 ・社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。	・情報バリアフリー、ユニバーサルデザインの意味と目的について説明することができる。 ・情報バリアフリーやユニバーサルデザインについて、身近な例をあげることができる。	A・B・C A・B・C
		2 情報デザインの工夫 3 情報デザインの実践 1 文書の作成		・情報を分類したり、わかりやすく表現したりする方法について理解する。 ・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。	・目的に応じて、LATCHの観点で情報を分類することができる。 ・わかりやすい報告書やレポートを作成するため、文書の構成やレイアウトについて自ら進んで工夫し、評価に基づいて改善しようとしている。	A・B・C A・B・C
		2 プレゼンテーションの工夫 3 Webページ		・プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。 ・Webページ作成の方法について理解する。	・説得力のあるプレゼンテーションを行うため、スライドの作成やリハーサルに取り組み、フィードバックを行いながら、よりよいプレゼンテーションになるよう粘り強く準備を進めている。 ・HTMLとCSSを用いて情報デザインを配したWebページを作成し、情報を公開することができる。	A・B・C A・B・C
9	第四回 考査 範囲	考査	1			
		第3章 情報のデジタル化とコンピュータ 1 情報のデジタル表現 1 デジタルと情報量 2 数値と文字の表現 3 音の表現 4 静止画と動画の表現 5 データ量とデータの圧縮	16	・アナログとデジタルの違い、2進数と情報量の関係について理解する。 ・数値や文字をデジタル化する方法を理解する。 ・音声をデジタルで表現する方法について理解する。 ・静止画や動画をデジタルで表現する方法について理解する。 ・情報のデータ量の計算とデータ量を小さくする方法について理解する。	・2進数と情報量の関係について説明することができる。 ・情報量を適切な単位で表現したり変換したりできる。 ・2進数・10進数・16進数を相互に変換することができる。 ・文字や文字列の情報量を求めることができる。 ・音声の情報をデジタル化するための原理を説明することができる。 ・画像の情報をデジタル化するための原理を説明することができる。 ・数値・文字・音声・画像などのデジタル化の仕組みに関心を示し、これらのデジタル化された情報を主体的かつ適切に取り扱おうとしている。 ・目的に応じて、データ圧縮のファイル形式を適切に選択することができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
		2 コンピュータの仕組みと動作 1 ハードウェアとソフトウェア 2 数値の計算 3 演算の仕組み 第4章 アルゴリズムとプログラミング 1 アルゴリズムとプログラミング 1 アルゴリズムとその表記 2 プログラミング言語 2 プログラミングの実践(Python) 1 プログラミングの基礎 2 関数を使用したプログラム 3 探索と整列のプログラム		・コンピュータの構成や動作、情報機器の接続、ソフトウェアの種類について理解する。 ・コンピュータでの数値の計算方法について理解する。 ・コンピュータの演算の仕組みを理解する。 ・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ・プログラミングの手順とプログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 ・変数を使用したプログラムを作成する。 ・関数を使用したプログラムを作成する。 ・多くのデータから目的のデータを探し出したり、数値を並べ替えたりするプログラムを作成する。	・ハードウェア、OS、応用ソフトウェアの関係を説明することができる。 ・補数について理解し、補数を使った減算について理解している。 ・論理回路(AND, OR, NOT)による演算の仕組みについて説明することができる。 ・アルゴリズムの基本制御構造(順次構造、分岐構造、反復構造)の違いについて説明することができる。 ・プログラミングの手順(設計→コーディング→テスト)を理解している。 ・変数を使用して分岐構造や反復構造のプログラムを作成することができる。 ・関数を使用して、簡単なユースケース関数を作成することができる。 ・問題解決のためのアルゴリズムを考え、粘り強く試行錯誤しながらプログラムを作成することができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
考査	1					
10	第四回 考査 範囲	第5章 情報通信ネットワークとセキュリティ 1 情報通信ネットワーク 1 ネットワークの構成 2 情報通信の取り決め 3 インターネットの仕組み 4 Webページとメールの仕組み 5 転送速度と誤り検出	16	・情報通信ネットワークの構成について理解する。 ・ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。 ・IPアドレスとドメイン名について理解する。 ・Webページとメールの仕組みについて理解する。 ・ネットワークを通じてデータを効率よく転送する工夫について理解する。	・LANを構成する機器について、それらの役割を説明することができる。 ・TCPとIPの二つのプロトコルの役割を理解している。 ・IPアドレスの構成について理解し、コンピュータのIPアドレスを調べることができる。 ・WWWや電子メールなど、インターネットのサービスの内容と基本的な仕組みを説明することができる。 ・転送速度とその単位について理解している。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
		2 情報セキュリティ 1 情報セキュリティの脅威と対策 2 安全のための情報技術		・情報セキュリティの脅威に対するさまざまな安全対策について理解する。 ・情報を安全に取り扱うための技術について理解する。	・おもな情報セキュリティへの脅威(リスク)と、その対策について理解している。 ・共通鍵暗号方式や公開鍵暗号方式など、基本的な暗号化の方式と仕組みについて説明することができる。	A・B・C A・B・C
		3 情報システム 1 社会の中の情報システム		・社会の中で活用されている情報システムについて理解する。	・社会の中の情報システムについて、事例をあげて説明することができる。	A・B・C
11	第五回 考査 範囲	2 情報システムの活用 3 データベース	17	・身のまわりの情報システムについて理解する。 ・データベースの種類とその仕組みについて理解する。	・これからの社会における情報システムの活用について、関心を示して調べてみようとしている。 ・データベースの必要性を理解し、ファイルによるデータの管理と、データベースによるデータの管理の違いについて説明することができる。	A・B・C A・B・C
		第6章 データの活用とシミュレーション 1 データの活用 1 データの収集と整理 2 データ分析と表計算 3 データの可視化 4 データ分析の手法 2 モデル化とシミュレーション 1 モデルとモデル化 2 シミュレーション		・データを収集したり整理したりする方法について理解する。 ・表計算ソフトウェアを使用して基本的なデータ処理を行う。 ・データを適切なグラフや図に表現する。 ・データ分析の手法について理解する。 ・モデル化の意味、分類、モデル化の手順について理解する。 ・シミュレーションの手順と方法について理解する。	・各尺度水準の性質について理解し、収集したデータを整理し、適切な尺度水準に分類することができる。 ・表計算ソフトウェアで統計処理に用いる関数を用いて基本統計量を求めることができる。 ・問題解決の目的に応じてグラフの種類を選択し、データを適切に可視化することができる。 ・クロス集計、相関係数を用いた分析、単回帰分析を行うことができる。 ・現実の現象についてのモデル化に関心をもち、自ら進んでモデル化を試みるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 ・コンピュータを活用して、現実の問題解決のために行うシミュレーションの活用事例をあげることができる。	A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C
		3 シミュレーションの実例 1 確定的モデルとシミュレーション 2 確率的モデルとシミュレーション 3 モデル化とシミュレーションによる問題解決		・確定的モデルのシミュレーションを行う。 ・確率的モデルのシミュレーションを行う。 ・問題解決のために、モデル化とシミュレーションを活用する。	・確定的モデルの例として、グッピーの増加やリボルビング払いなど、身近な事例の数学モデルを作り、表計算ソフトウェアでシミュレーションすることができる。 ・確率的モデルをコンピュータでシミュレーションする意義と活用事例について説明することができる。 ・待ち行列の事例をモデル化して、来客が増えるについて、待ち時間がどのように変化するか求めることができる。	A・B・C A・B・C A・B・C
12	第六回 考査 範囲	考査	1			
		3 新年度の準備	1			

第 1 回定期考査学習計画

【1】定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
現代の国語			
言語文化			
地理総合			
公共			
数学 I			
数学A			
生物基礎			
保健			
英語コミュニケーション I			
論理・表現 I			
情報 I			

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

第 2 回定期考査学習計画

【1】 定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】 各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
論理国語			
文学国語			
古典探究			
歴史総合			
数学Ⅱ			
数学B			
化学基礎			
物理基礎/地学基礎			
保健			
英語コミュニケーションⅡ			
論理表現Ⅱ			
家庭基礎			

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

第 3 回定期考查学習計画

【1】 定期考查日程

考查時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】 各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考查点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
現代の国語			
言語文化			
地理総合			
公共			
数学 I			
数学A			
生物基礎			
保健			
英語コミュニケーション I			
論理・表現 I			
情報 I			

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

第 4 回定期考査学習計画

【1】定期考査日程

考査時間割	1校時	2校時	3校時
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			
月 日 曜日			

【2】各科目の目標とテスト対策

科目	目標点	テスト対策(主にやること)	考査点
記入例	80	ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く	実際の点数を記入
現代の国語			
言語文化			
地理総合			
公共			
数学 I			
数学A			
生物基礎			
保健			
英語コミュニケーション I			
論理・表現 I			
情報 I			

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

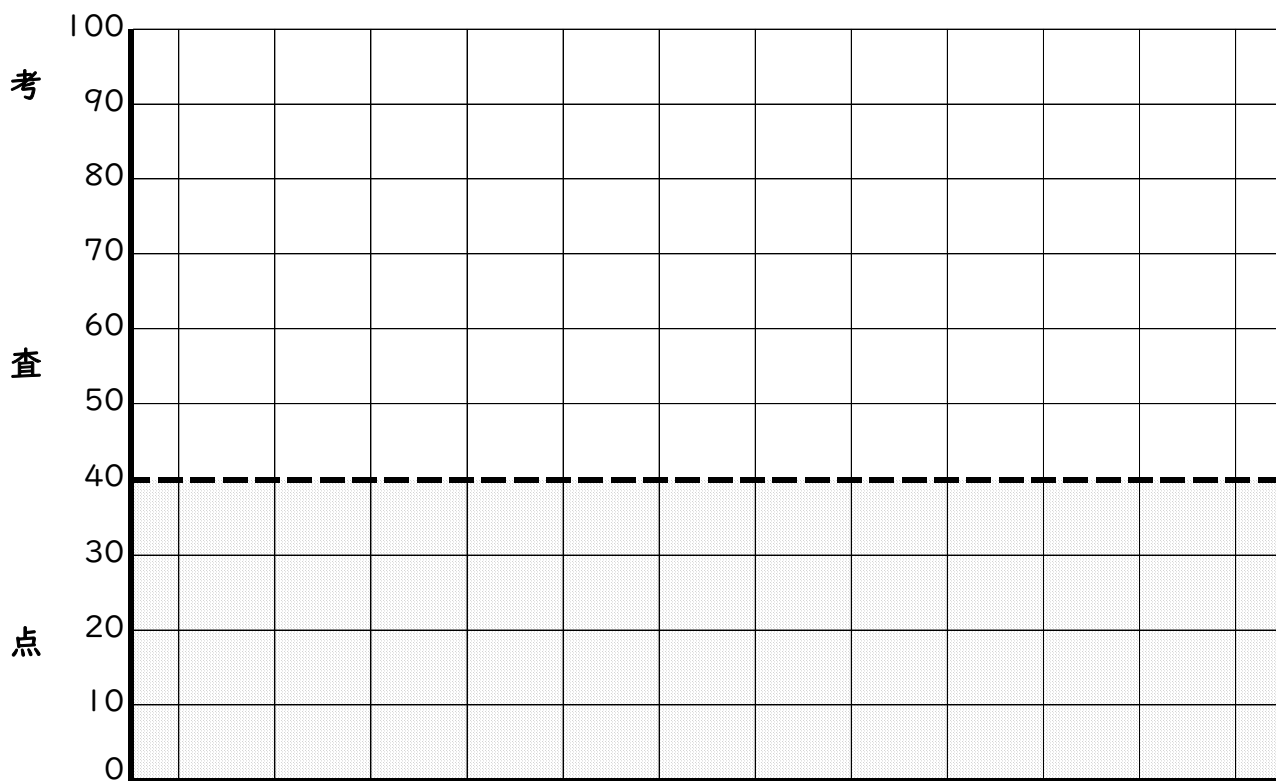
○ 考查点・評価点をまとめよう。

1期:黒

2期:赤

3期:青

4期:緑



科目名												
1期考查点												
2期考查点												
3期考查点												
4期考查点												

○ 評価点
のまとめ

1期評価点												
2期評価点												
3期評価点												
3期までの 合計点												
目標評定												
4期 目標点												
4期評価点												

評定「5」:評価点80~100点

評定「4」:評価点65~79点

評定「3」:評価点45~64点

評定「2」:評価点30~44点

評定「1」:評価点29点以下

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

	月	火	水	木	金	土	日
5:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							
0:00							

学校

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

	月	火	水	木	金	土	日
5:00							
6:00							
7:00							
8:00							
9:00							
10:00							
11:00							
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
22:00							
23:00							
0:00							

学校